

第2次健康食育あつぎプラン
～生涯現役健康都市の実現に向けて～
中間評価報告書

厚 木 市

目次

第1章 中間評価の概要	1
1 はじめに	1
2 中間評価の方法	1
3 全体の評価と課題	2
(1) 全体の評価	2
(2) 取組分野における課題	2
4 今後の取組	5
(1) 推進体制	5
(2) 最終年度に向けて	5
第2章 中間評価	6
1 プランの体系	6
2 評価の判定基準	8
3 中間評価の総合結果	8
(1) 分野別・世代別評価結果	8
(2) 8分野の結果	9
4 取組分野別・年齢期区分別評価結果	17
(1) 生活習慣病・がん・認知症	17
(2) 飲酒・喫煙	23
(3) 食の安全・安心	28
(4) 食への感謝と地産地消	34
(5) 栄養・食生活	40
(6) 身体活動・運動	46
(7) 休養・こころの健康	52
(8) 歯・口腔の健康	58

資料.....	64
1 国と厚木市の状況.....	64
2 人口構成の推移.....	65
3 高齢化率の推移.....	66
4 健康寿命・平均寿命の状況.....	67
5 乳幼児健康診査の状況.....	69
6 学校保健の状況.....	70
7 がん検診の状況.....	71
8 歯科検診の状況.....	72
9 特定健康診査受診者の状況.....	72
10 長寿健康診査受診者の状況.....	73

第1章 中間評価の概要

1 はじめに

健康の増進と食育の推進を一体的に進める第2次健康食育あつぎプランは、「健康で、自分らしい生き生きとした暮らしの実現に向けて、それぞれのライフステージに応じた健康づくりを進めよう」、「食で広がるあつぎの未来～楽しく食べて、生きる力を育もう～」を基本理念とし、平成27年度に策定しました。

計画期間を5か年とし、基本目標を「健康寿命の延伸、みんなで描く健幸生活」として設定し、平均寿命の増加分を上回る健康寿命の増加を目指し、施策を総合的に推進してきました。

また、計画の推進に当たっては、個人自らの主体的な取組を基本とし、健康づくり及び食育推進について具体的な目標を設定した上で、家庭、地域、学校、職場及び行政が協働で進めることとしています。

今年度は、計画期間の最終年度の前年に当たることから、市民の健康意識や健康状態等がどのように変化しているか調査及び分析を行い、これまでの取組の成果や目標の達成状況を評価するとともに、今後の課題等を明らかにするため、中間評価を実施いたしました。

この結果を踏まえ、計画期間最終年度（令和2年度）の目標達成に向け、健康及び食育の意識等を更に高めていく啓発事業等の推進を図っていきます。

2 中間評価の方法

(1) 評価方法

アンケート調査による分析及び評価

(2) 調査期間

令和元年6月6日～6月24日

(3) 調査対象者、回収状況等

調査対象者	配布数	有効回答数	有効回答率
幼児調査	460通	218通	47.4%
小学生調査	400通	191通	47.8%
中高生調査	800通	239通	29.9%
一般調査	1,340通	433通	32.3%
合計	3,000通	1,081通	36.0%

3 全体の評価と課題

(1) 全体の評価

アンケートの回答では、前回調査と同様、ほとんどの世代において、約 80%の方が、「朝食を毎日食べる」、「バランスの良い食事を心掛けている」という結果となりました。一方、高校生で「朝食を毎日食べる」が前回調査値 78.4%から 69.2%と 9.2 ポイント減少、成人で「バランスの良い食事を心掛けている」が前回調査値 84.7%から 62.4%と 22.3 ポイント減少しており、健康や食育等に関する意識の低下がうかがえます。国の「健康日本 21 (第 2 次)」及び県の「かながわ健康プラン 21 (第 2 次)」とともに、本市においても「健康食育あつぎプラン」により、更なる健康づくりを推進していますが、健康や食育についての関心が減速していることが、この結果から認められます。

今後も、健康意識等を高めるための全体的な底上げが重要であり、健康や食育の更なる取組や啓発等を推進する必要があります。

なお、各分野の課題については、次のとおりです。

(2) 取組分野における課題

①生活習慣病・がん・認知症

「午後 10 時までには寝る習慣がある」、「午前 6 時台に起きる習慣がある」小学生は前回調査より減少しています。生活リズムの乱れが、朝食の欠食など食習慣にも影響を与えることから、早寝・早起き・朝ごはんなど、正しい生活リズムを身に付けていくことが必要です。

肥満女性は 18.8%で、前回調査より 5.2 ポイント増加し、「夕食以降の甘味飲料や食べ物の摂取がない」成人は前回調査より減少しています。間食や糖分の摂りすぎは肥満や生活習慣病のリスクをさらに高めることから、望ましい食習慣を身につけ、適正体重の維持、並びに生活習慣病予防に努めることが重要です。

成人のロコモティブシンドロームを知っている人は、約 5 割となっています。ロコモティブシンドローム予防の普及啓発を行い、就労や社会参加を通じた身体活動などにより、運動機能の維持向上を図ることが必要です。

②飲酒・喫煙

人が吸っているたばこの煙について、「やめて欲しい」「場所を考えて吸って欲しい(分煙してほしい)」割合は、中学生で前回調査より減少しています。「喫煙が及ぼす健康影響について、理解している割合」の学童期・思春期は、前回調査より減少しています。

たばこの影響を正しく理解し、地域や家庭内等での受動喫煙に配慮するなど、子どもにたばこをふれさせない環境づくりが必要です。

成人のCOPD（慢性閉塞性肺疾患）を知っている人は、約5割となっています。喫煙が健康に及ぼす影響の理解やCOPD（慢性閉塞性肺疾患）についての啓発が必要です。

成人における適切な飲酒量を知っている人は29.1%で、前回調査より6.6ポイント減少しています。また、女性の多量飲酒者が9.3%と前回調査より8.1ポイント増加しています。飲酒が体に及ぼす影響についての知識を身につけ、適切な飲酒量を知ることが必要です。

③食の安全・安心

食品を購入するときに重視することとして、「新鮮さ」「賞味・消費期限」「栄養成分表示」の割合は、前回調査より減少傾向にあります。安全な食品や食品衛生に関する知識を持ち、食品を選択する力を身に付けていくことが必要です。

手洗い・うがいの励行の「必ずしている」各世代の達成割合は、低い数値となっています。手洗い・うがいは病気予防の第一歩となりますので、外出から帰ったら正しい手の洗い方やうがいを習慣にできるように身に付けることが必要です。

④食への感謝と地産地消

食事のあいさつを「必ずしている」幼児、小学生の割合は、前回調査より減少しており、食への感謝の気持ちやマナーを身に付けていくことが必要です。

農業体験をしたことがある高校生の割合は、前回調査より減少しています。

食に対する興味や関心を持ち、感謝しながら食事をすることを目指すためにも、栽培や収穫、調理など様々な食の体験をしていくことが必要です。

地場産物の購入を「実践したい」割合は、前回調査より減少し、地元食材が購入できる販売店などの情報を提供していくことが求められます。

⑤栄養・食生活

バランスの良い食事を心掛けている人の割合は、前回調査より減少傾向にあり、健全な食生活を実践できるよう、啓発を行っていくことが必要です。

成人の朝食を毎日食べる人の割合は75.1%で、前回調査より3.1ポイント減少しており、朝食をとることやバランスの良い食事をとることなど、望ましい食生活について習慣にすることが必要です。

⑥身体活動・運動

乳幼児と一緒に遊ぶ父親の割合は67.9%で、前回調査より2.5ポイント減少しています。同学年の子どもと遊ぶ小学生の割合も、前回調査より減少しています。気軽に運動できる場の提供及び情報発信が必要です。また、運動習慣を日常生活の中で取り入れる工夫が大切です。心身共に健康に過ごすため、成長期であるこの時期に、積極的に運動することを心掛ける必要があります。

⑦休養・こころの健康

乳幼児、小学生保護者の子育てを「負担」と感じている人の割合は、前回調査より増加しており、子育ての楽しみや喜びを感じられるような子育て環境の充実を図ることが必要です。

成人のストレスの解消ができている女性の割合は69.5%で、前回調査より2.5ポイント減少し、心の悩みについて相談できる人がいる割合は88.5%で、前回調査より0.8ポイント減少しています。自分にあった健康的なストレス解消法を見つけることや、身近な相談相手を持つことが必要です。

⑧歯・口腔の健康

おやつ回数を1日2回以下にする乳幼児保護者の割合は89.5%で、前回調査より3.1ポイント減少しており、乳歯がむし歯になるとその後生えてくる永久歯にも悪影響を与えるため、乳幼児期からのむし歯予防について啓発していくことが必要です。

かかりつけ歯科医がいる人の割合は、前回調査より減少傾向にあり、歯や口腔の健康づくりのためにもかかりつけの歯科医を持ち、定期的に歯科健診を受けることが必要です。

4 今後の取組

(1) 推進体制

厚木市保健福祉審議会（検証・提言）、厚木市健康食育推進協議会（協議・意見具申）、健康あつぎ推進リーダー（地域での健康づくり事業の展開）及び庁内推進委員会（市の関係各課が連携した横断的な組織として設置し、事業計画と実績の把握、課題抽出、事業の推進）の推進体制により、目標に向け、更なる推進を図ります。

(2) 最終年度に向けて

この計画の目標がどれだけ達成できたのか、また、市民の健康状態がどれだけ向上したのかを評価し、検証することは、計画を推進する上で非常に重要です。このため、最終年度に向けて、数値的な評価だけではなく、市民の健康意識がどのように変化しているかを把握する方法として「中間評価結果」のほか、人口動態統計、各種健康診査結果などを分析し、「健康寿命の延伸」、「生涯現役健康都市」の実現に向け、目標の達成度を評価します。

第2章 中間評価

1 プランの体系

[基本目標]

[基本方針]

[取組分野]



[みんなの願い]

[乳幼児期]

乳幼児期（おおむね0歳～6歳）

[学童期・思春期]

学童期（おおむね7歳～12歳）
思春期（おおむね13歳～19歳）

[成人期]

青年期（おおむね20歳～39歳）
壮年期（おおむね40歳～64歳）
高年期（おおむね65歳～）

妊婦健康診査・乳幼児健康診査を受けよう

自分の健康を考えよう

健康診査・がん検診を受けよう

受動喫煙をなくそう

飲酒・喫煙の健康被害を知ろう

適度な飲酒に心掛け禁煙に取り組もう

食に関心を持って楽しく食事をしよう

食の正しい知識・選択する力を育もう

安全な食品を選ぼう

食事のあいさつをしっかりとしよう

地元特産物を感謝して食べよう

地元食材を無駄なく活用しよう

規則正しい習慣を身に付け生活リズムを整えよう

1日3食おいしく楽しくしっかりと食べよう

自分の食事の適量をバランスよく食べよう

家族みんなで楽しく遊ぼう

仲間と楽しくスポーツをしよう

生活の中で効率良く運動量を増やそう

家族のふれあいを増やそう

気軽に相談できる相手を見つけよう

認め合える仲間とたくさん笑おう

食べたら歯磨きの習慣を付けよう

自分の歯と歯ぐきを知ろう

いつまでも自分の歯で食事を楽しもう

2 評価の判定基準

(1) 中間評価

評価指標ごとの中間評価は、5段階に分けて評価しています。

評価点	状況	令和元年度値 — 平成25年度の基準値
1	悪化の方向	-5.0%以下
2	やや悪化の方向	-4.9%~-2.1%
3	変わらず	-2.0%~1.9%
4	やや改善の方向	2.0%~4.9%
5	改善の方向	5.0%以上

(2) 世代別分野別評価点

世代別分野別評価点は、次のように算出しました。

世代別分野別評価点

$$= (\text{悪化の方向の項目数} \times 1 \text{点}) + (\text{やや悪化の方向の項目数} \times 2 \text{点}) + \\ (\text{変わらずの項目数} \times 3 \text{点}) + (\text{やや改善の方向の項目数} \times 4 \text{点}) + \\ (\text{改善の方向の項目数} \times 5 \text{点}) \div \text{全項目数}$$

3 中間評価の総合結果

(1) 分野別・世代別評価結果

食の安全・安心において、乳幼児期2.3点、成人期2.2点となりました。その要因としては、手洗い・うがいの習慣が身につけていないことが考えられます。

栄養・食生活において、成人期が2.1点の評価で、野菜不足やバランスの良い食事ができていないことが要因と考えられます。

身体活動・運動において、学童期・思春期が2.0点の評価で、小学生で週2回以上の運動習慣者が少ないことが要因と考えられます。
















食への感謝と地産地消、歯・口腔の健康においては、すべての世代で3点以上の評価となりました。

世代別では、成人期で悪化の分野が多いため、課題について意識の啓発と環境づくりを推進する必要があります。





分野	世代			
	乳幼児期	学童期・思春期	成人期	平均
生活習慣病・がん・認知症	3.3点	2.7点	2.9点	3.0点
飲酒・喫煙	5.0点	3.1点	2.9点	3.7点
食の安全・安心	2.3点	3.1点	2.2点	2.5点
食への感謝と地産地消	3.7点	3.6点	3.3点	3.5点
栄養・食生活	2.8点	3.3点	2.1点	2.7点
身体活動・運動	2.5点	2.0点	4.5点	3.0点
休養・こころの健康	3.0点	3.2点	2.8点	3.0点
歯・口腔の健康	4.2点	3.7点	3.6点	3.8点
平均	3.4点	3.1点	3.0点	—

(2) 8分野の結果

① 生活習慣病・がん・認知症

	指標		平成 25 年度	中間評価値 令和元年度	達成割合		目標値 令和 2 年度	
乳幼児期	妊婦健康診査	受診率	74.4%	87.0%	108.8%		80%以上	
	3歳6か月児健康診査	受診率	92.8%	92.4%	97.3%		95%以上	
	早寝の習慣を付ける	午後9時までに寝る習慣がある幼児	29.4%	33.0%	50.8%		65%以上	
	早起きの習慣を付ける	午前7時台に起きる習慣がある幼児	47.0%	41.7%	64.2%		65%以上	
学童期・思春期	早寝の習慣を心掛け、心身の健康を高める	午後10時までに寝る習慣がある小学生	66.5%	62.3%	83.1%		75%以上	
	早起きの習慣を付ける	午前6時台に起きる習慣がある小学生	69.9%	64.9%	86.5%		75%以上	
	よく噛んで食べる習慣を付ける	よく噛んで食べる習慣がある小学生	70.8%	81.2%	108.3%		75%以上	
成人期	特定健康診査	受診率	32.4%	33.1%	55.2%		60%以上	
	長寿健康診査	受診率	36.8%	38.1%	103.0%		37%以上	
	がん検診	受診率	26.6%	24.5%	81.7%		30%以上	
	体重をコントロールする	肥満男性		28.4%	23.0%	108.7%		25%以下
		肥満女性		13.6%	18.8%	79.8%		15%以下
		やせ 20~30 歳代女性		20.9%	19.6%	76.5%		15%以下
	夕食以降の飲食回数を減らす	夕食以降の甘味飲料や食べ物の摂取がない		40.0%	38.3%	63.8%		60%以上
	ロコモティブシンドローム（運動器症候群）の認知度		—	50.1%	62.6%		80%以上	

達成割合：令和元年度中間評価値の令和2年度目標値に対する割合を示しています。

 (100%以上)  (80~99%)  (50~79%)  (49%以下)

② 飲酒・喫煙













	指標		平成 25 年度	中間評価値 令和元年度	達成割合		目標値 令和 2 年度	
乳幼児期	家庭での分煙、禁煙に対する配慮をしている（同居者に喫煙者がいる家庭）	乳幼児の保護者	87.2%	92.5%	92.5%	😊	100%	
学童期・思春期	家庭内での分煙、禁煙に対する配慮をしている	小学生の家庭	93.0%	90.9%	90.9%	😊	100%	
	未成年者の喫煙	「吸ったことがある」 中学生・高校生	1.2%	1.7%	—	—	0%	
	人が吸っている たばこの煙	「やめて欲しい」 「場所を考えて吸って欲しい(分煙してほしい)」	小学生	92.8%	91.1%	91.1%	😊	100%
			中学生	87.0%	75.7%	75.7%	😐	100%
			高校生	87.9%	90.1%	90.1%	😊	100%
	喫煙・受動喫煙が及ぼす影響を理解している（中学生・高校生）	肺がん	96.2%	94.6%	94.6%	😊	100%	
		妊娠に関連した異常	59.7%	58.2%	58.2%	😐	100%	
未成年者の飲酒	「飲んだことがある」 中学生・高校生	13.2%	6.7%	—	—	0%		
成人期	喫煙の割合		15.5%	15.9%	94.3%	😊	15%以下	
	禁煙の意向	「すぐにでも禁煙したい」	7.8%	11.6%	96.7%	😊	12%以上	
	人が吸っているたばこの煙	「やめて欲しい」「場所を考えて吸って欲しい(分煙してほしい)」	76.4%	81.9%	102.4%	😄	80%以上	
	COPD（慢性閉塞性肺疾患）の認知度		—	50.6%	63.3%	😐	80%以上	
	喫煙・受動喫煙が及ぼす影響を理解している	肺がん	93.6%	93.1%	93.1%	😊	100%	
		妊娠に関連した異常	58.1%	58.7%	58.7%	😐	100%	
	多量飲酒者	男性	5.7%	5.7%*	87.7%	😊	5%以下	
		女性	1.2%	9.3%*	—	—	0%	
適切な飲酒量を知っている		35.7%	29.1%	29.1%	😞	100%		

※多量飲酒者：一日当たりの純アルコール摂取量が 60 g 以上の者

達成割合：令和元年度中間評価値の令和 2 年度目標値に対する割合を示しています。

😊 (100%以上) 😊 (80~99%) 😐 (50~79%) 😞 (49%以下)

③ 食の安全・安心

	指標		平成 25 年度	中間評価値 令和元年度	達成割合		目標値 令和 2 年度
乳幼児期	手洗い・うがいの励行	「必ずしている」乳幼児	57.6%	47.2%	47.2%		100%
	食品を購入するときに重視すること (乳幼児の保護者)	新鮮さ	85.8%	78.9%	87.7%		90%以上
		賞味・消費期限	66.8%	68.8%	91.7%		75%以上
	家族と一緒に食事をする回数	1日2回以上、家族と食事をする	84.0%	82.1%	91.2%		90%以上
学童期・思春期	手洗い・うがいの励行	「必ずしている」小学生	52.1%	52.4%	52.4%		100%
		中学生・高校生	43.3%	44.4%	44.4%		100%
	食品を購入するときに重視すること (小学生の保護者)	新鮮さ	86.1%	87.4%	92.0%		95%以上
		賞味・消費期限	73.8%	72.8%	85.6%		85%以上
		栄養成分表示	13.9%	14.1%	70.5%		20%以上
	食に関する適切な情報を利用する	中学生	10.7%	12.2%	81.3%		15%以上
高校生		10.3%	14.3%	95.3%		15%以上	
成人期	手洗い・うがいの励行	「必ずしている」	48.4%	47.1%	47.1%		100%
	食品を購入するときに重視すること	新鮮さ	86.4%	78.3%	87.0%		90%以上
		賞味・消費期限	72.9%	68.8%	86.0%		80%以上
		栄養成分表示	17.8%	14.1%	70.5%		20%以上
食に関する適切な情報を利用する	実践している	18.0%	18.2%	91.0%		20%以上	

達成割合：令和元年度中間評価値の令和2年度目標値に対する割合を示しています。

 (100%以上)  (80~99%)  (50~79%)  (49%以下)

④ 食への感謝と地産地消

	指標		平成 25 年度	中間評価値 令和元年度	達成割合		目標値 令和 2 年度	
	乳幼児期	農業体験	ふれあう機会がない	28.4%	24.3%	102.9%	😊	25%以下
調理や保存を上手にし、無駄や廃棄を少なくする努力をしている		「できている」「だいたいできている」乳幼児の保護者	79.7%	88.0%	110.0%	😊	80%以上	
食事のあいさつ（「いただきます」「ごちそうさま」）をしている		「必ずしている」幼児	56.9%	53.2%	66.5%	😐	80%以上	
学童期・思春期	農業体験をしたことがある	小学生	85.8%	90.6%	100.7%	😊	90%以上	
		中学生	87.8%	79.7%	88.6%	😊	90%以上	
		高校生	73.7%	75.8%	89.2%	😊	85%以上	
	調理や保存を上手にし、無駄や廃棄を少なくする努力をしている	「できている」「だいたいできている」	小学生の保護者	84.3%	93.7%	104.1%	😊	90%以上
			中学生	84.4%	84.5%	93.9%	😊	90%以上
			高校生	77.2%	84.6%	105.8%	😊	80%以上
	食事のあいさつ（「いただきます」「ごちそうさま」）をしている	「必ずしている」	小学生	63.9%	59.2%	69.6%	😐	85%以上
			中学生	63.4%	62.8%	89.7%	😊	70%以上
			高校生	47.4%	58.2%	116.4%	😊	50%以上
成人期	農業体験をしたことがある		60.3%	59.8%	79.7%	😐	75%以上	
	調理や保存を上手にし、無駄や廃棄を少なくする努力をしている	「できている」「だいたいできている」	77.6%	90.1%	112.6%	😊	80%以上	
	（厚木産を意識した）地場産物の購入をしている	「実践したい」	20.1%	18.0%	60.0%	😐	30%以上	

達成割合：令和元年度中間評価値の令和2年度目標値に対する割合を示しています。

😊 (100%以上) 😊 (80~99%) 😐 (50~79%) 😞 (49%以下)

⑤ 栄養・食生活

	指標		平成 25 年度	中間評価値 令和元年度	達成割合		目標値 令和 2 年度	
	乳幼児期	朝食を毎日食べる	実行できている乳幼児	91.2%	92.2%	92.2%	😊	100%
バランスの良い食事を心掛けている		乳幼児の保護者	91.2%	90.4%	95.2%	😊	95%以上	
子どもの頃から薄味でおいしく食べる		大人の半分以下の濃さの味付けが実行できている乳幼児の保護者	28.6%	29.4%	98.0%	😊	30%以上	
早寝の習慣を付ける		午後 9 時までに寝る習慣がある乳幼児	28.4%	33.0%	50.8%	😐	65%以上	
早起きの習慣を付ける		午前 7 時台に起きる習慣がある乳幼児	47.0%	41.7%	64.2%	😐	65%以上	
学童期・思春期	朝食を毎日食べる	実行できている	小学生	92.5%	95.3%	95.3%	😊	100%
			中学生	85.1%	84.5%	84.5%	😊	100%
			高校生	78.4%	69.2%	86.5%	😊	80%以上
	家族と一緒に食事をしている	小学生		94.0%	93.7%	93.7%	😊	100%
		中学生（夕食）		90.8%	87.8%	92.4%	😊	95%以上
		中学生（朝食）		56.1%	54.7%	91.2%	😊	60%以上
		高校生（夕食）		80.2%	83.5%	98.2%	😊	85%以上
		高校生（朝食）		34.1%	38.5%	96.3%	😊	40%以上
	野菜を積極的に食べる	「野菜不足を感じている」	中学生	36.0%	30.4%	82.2%	😊	25%以下
			高校生	43.1%	29.7%	84.2%	😊	25%以下
	バランスの良い食事を心掛けている	小学生		80.7%	81.7%	90.8%	😊	90%以上
		中学生		74.8%	85.8%	107.3%	😄	80%以上
高校生		73.7%	78.0%	97.5%	😊	80%以上		
早寝の習慣を心掛け、心身の健康を高める	午後 10 時までに寝る小学生		66.5%	62.3%	83.1%	😊	75%以上	
早起きの習慣を付ける	午前 6 時台に起きる習慣がある小学生		69.9%	64.9%	86.5%	😊	75%以上	
成人期	朝食を毎日食べる	実行できている		78.2%	75.1%	88.4%	😊	85%以上
	バランスの良い食事を心掛けている			84.7%	62.4%	69.3%	😐	90%以上
	家族と一緒に食事をしている	朝食		43.8%	36.3%	66.0%	😐	55%以上
		夕食		66.4%	63.7%	74.9%	😐	85%以上
	野菜を積極的に食べる	「毎食野菜（緑黄色野菜）を食べている」		13.6%	12.2%	27.1%	😞	45%以上
		「毎食野菜（緑黄色野菜以外）を食べている」		14.9%	11.8%	26.2%	😞	45%以上
	塩分を控える	「塩分をとり過ぎないように気を付けている」		52.5%	50.6%	84.3%	😊	60%以上
食事の量に配慮している	「食べ過ぎないように気を付けている」		59.3%	59.1%	90.9%	😊	65%以上	

達成割合：令和元年度中間評価値の令和 2 年度目標値に対する割合を示しています。

😊 (100%以上) 😊 (80~99%) 😐 (50~79%) 😞 (49%以下)

⑥ 身体活動・運動

	指標		平成 25 年度	中間評価値 令和元年度	達成割合		目標値 令和 2 年度
乳幼児期	母親と一緒に遊ぶ	乳幼児	86.2%	84.9%	94.3%	😊	90%以上
	父親と一緒に遊ぶ	乳幼児	70.4%	67.9%	90.5%	😊	75%以上
	毎日外で遊ぶ	実行している幼児	83.1%	83.9%	98.7%	😊	85%以上
	テレビやビデオを見る時間を2時間以内にする	テレビやビデオを2時間以上見ている幼児	56.0%	59.6%	92.3%	😊	55%以下
学童期・思春期	テレビやビデオを見る時間を2時間以内にする	テレビやビデオを見る時間が2時間以上の小学生	59.3%	65.4%	84.1%	😊	55%以下
	同学年の子どもと遊ぶ	小学生	83.7%	78.0%	86.7%	😊	90%以上
	異学年の子どもと遊ぶ	小学生	77.7%	73.8%	92.3%	😊	80%以上
	週2回以上の運動を心掛けている	小学生	66.6%	53.9%	77.0%	😐	70%以上
		中学生	76.7%	81.8%	96.2%	😊	85%以上
		高校生	57.8%	53.8%	82.8%	😊	65%以上
成人期	心身の健康を高めるため、意識的に体を動かす	実施している	56.3%	61.4%	94.5%	😊	65%以上
	できるだけ歩くように心掛ける	1時間以上歩いている	30.6%	32.6%	93.1%	😊	35%以上
	週2回30分以上運動をする	運動習慣者（男性）	36.2%	40.8%	90.7%	😊	45%以上
		運動習慣者（女性）	22.9%	30.5%	87.1%	😊	35%以上





達成割合：令和元年度中間評価値の令和2年度目標値に対する割合を示しています。

😊 (100%以上) 😊 (80~99%) 😐 (50~79%) 😞 (49%以下)

⑦ 休養・こころの健康

	指標		平成 25 年度	中間評価値 令和元年度	達成割合		目標値 令和 2 年度
乳幼児期	子育てが「楽しい」と感じている	乳幼児の保護者	19.9%	15.1%	60.4%	☹️	25%以上
	子育てが「負担」と感じている	乳幼児の保護者	15.1%	16.1%	93.2%	😊	15%以下
	早寝の習慣を付ける	午後 9 時までに寝る習慣がある幼児	28.4%	33.0%	50.8%	☹️	65%以上
学童期・思春期	朝すっきり目覚めることができる	小学生	20.2%	21.5%	86.0%	😊	25%以上
		中学生	12.6%	14.2%	94.7%	😊	15%以上
		高校生	9.5%	7.7%	77.0%	☹️	10%以上
	ストレスの解消ができています	小学生	57.5%	58.1%	96.8%	😊	60%以上
		中学生	73.3%	76.4%	101.9%	😄	75%以上
		高校生	73.3%	76.9%	102.5%	😄	75%以上
	子ども自身が相談できる人がいると思う	小学生の保護者	70.8%	69.1%	92.1%	😊	75%以上
	子育てが「負担」と感じている	小学生の保護者	14.2%	16.8%	77.4%	☹️	13%以下
心の悩みについて相談できる人がいる	「特にいない」中学生・高校生	15.8%	13.4%	74.6%	☹️	10%以下	
成人期	ストレスの解消ができています	男性	69.8%	71.2%	89.0%	😊	80%以上
		女性	72.0%	69.5%	86.9%	😊	80%以上
	朝すっきり目覚めることができる		16.9%	17.1%	68.4%	☹️	25%以上
	心の悩みについて相談できる人がいる	相談する相手がいる	89.3%	88.5%	98.3%	😊	90%以上

達成割合：令和元年度中間評価値の令和 2 年度目標値に対する割合を示しています。

 (100%以上)
  (80~99%)
  (50~79%)
  (49%以下)

⑧ 歯・口腔の健康

	指標		平成 25 年度	中間評価値 令和元年度	達成割合		目標値 令和 2 年度		
乳幼児期	おやつ回数を1日2回以下にする	実行している乳幼児の保護者	92.6%	89.5%	94.2%	😊	95%以上		
	きちんと子どもの歯の仕上げ磨きをする	実行している乳幼児の保護者	86.5%	95.0%	105.6%	😄	90%以上		
	フッ化物を継続的に利用する	フッ素入り歯磨き剤を使用している乳幼児の保護者	53.0%	68.3%	75.9%	😊	90%以上		
	おやつと食事を2時間以上あける	実行できている乳幼児	59.8%	57.8%	64.2%	😊	90%以上		
	かかりつけ歯科医を持ち定期的に歯科健康診査を受ける	かかりつけ歯科医がいる乳幼児	定期的に歯科健康診査を受けている乳幼児	45.1%	50.5%	84.2%	😊	60%以上	
			定期的に歯科健康診査を受けている乳幼児	35.0%	43.1%	107.8%	😄	40%以上	
学童期・思春期	よく噛んで食べる習慣を付ける	よく噛んで食べる習慣がある小学生	70.8%	81.2%	108.3%	😄	75%以上		
	正しい歯磨き習慣を付ける	食事後には、必ず歯を磨く小学生	丁寧に磨いている	中学生	36.3%	37.2%	62.0%	😊	60%以上
				高校生	25.4%	27.5%	55.0%	😊	50%以上
			小学生	51.2%	62.8%	114.2%	😄	55%以上	
	フッ化物を継続的に利用する	フッ素入り歯磨き剤を使用している	中学生	32.8%	56.1%	160.3%	😄	35%以上	
			高校生	21.6%	37.4%	106.9%	😄	35%以上	
			小学生	88.0%	83.2%	92.4%	😊	90%以上	
	かかりつけ歯科医を持つ	かかりつけ歯科医がいる	中学生	74.4%	79.1%	98.9%	😊	80%以上	
			高校生	61.2%	57.1%	81.6%	😊	70%以上	
			小学生	88.0%	83.2%	92.4%	😊	90%以上	
成人期	正しい歯磨きの習慣を付ける	毎食後丁寧に磨く	32.0%	34.9%	58.2%	😊	60%以上		
	歯間部清掃用具を使用する	使用している	43.8%	54.7%	109.4%	😄	50%以上		
	若いころからかかりつけ歯科医の指導を受ける	かかりつけ歯科医がいる	20歳代	52.3%	46.2%	77.0%	😊	60%以上	
			30歳代	48.9%	49.1%	81.8%	😊	60%以上	
	定期的に歯科健康診査を受ける	受けている	23.1%	33.7%	56.2%	😊	60%以上		

達成割合：令和元年度中間評価値の令和2年度目標値に対する割合を示しています。

😄 (100%以上) 😊 (80~99%) 😊 (50~79%) 😞 (49%以下)

4 取組分野別・年齢期区分別評価結果

(1) 生活習慣病・がん・認知症

【乳幼児期】

みんなの願い 妊婦健康診査・乳幼児健康診査を受けよう

	指標		平成 25 年度	中間評価 令和元 年度	評価点	目標	目標値 令和 2 年度
乳 幼 児 期	妊婦健康診査	受診率	74.4%	87.0%	5	増やす	80%以上
	3歳6か月児健康診査	受診率	92.8%	92.4%	3		95%以上
	早寝の習慣を付ける	午後9時までに寝る習慣がある幼児	29.4%	33.0%	4		65%以上
	早起きの習慣を付ける	午前7時台に起きる習慣がある幼児	47.0%	41.7%	1		65%以上

※5は目標値を達成した項目

<中間評価>

- 午後9時までに寝る習慣がある幼児は33.0%で、前回調査より3.6ポイント増加しています。
- 午前7時台に起きる習慣がある幼児は41.7%で、前回調査より5.3ポイント減少していますが、午前6時台に起きる習慣がある幼児は45.4%で、前回調査より5.2ポイント増加しています。

<今後の課題>

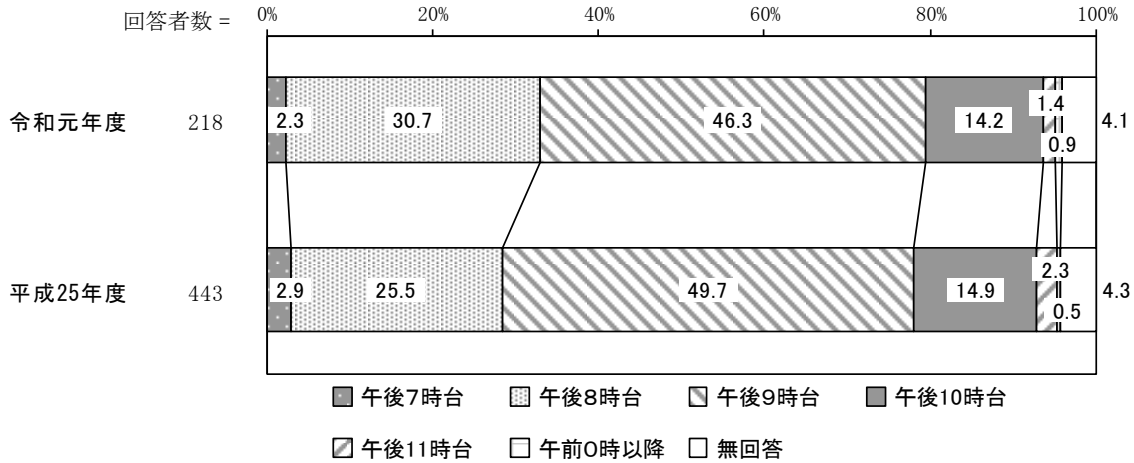
- 乳幼児期は、生活リズムが整っていく時期となるので、早寝・早起きの規則正しい生活習慣を身に付けるためにも、家族一緒に取り組んでいく必要があります。

<主なアンケート調査結果>

①就寝時間

「午後9時台」の割合が46.3%と最も高く、次いで「午後8時台」の割合が30.7%、「午後10時台」の割合が14.2%となっています。

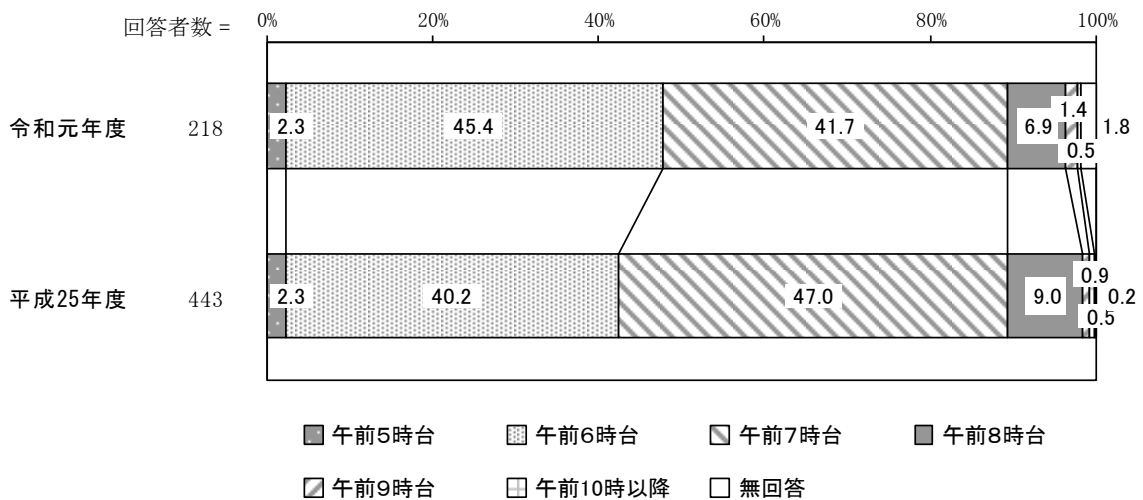
前回調査と比較すると、「午後8時台」の割合が5.2ポイント増加しています。



②起床時間

「午前6時台」の割合が45.4%と最も高く、次いで「午前7時台」の割合が41.7%となっています。

前回調査と比較すると、「午前6時台」の割合が5.2ポイント増加し、「午前7時台」の割合が5.3ポイント減少しています。



【学童期・思春期】

みんなの願い 自分の健康を考えよう

	指標		平成 25 年度	中間評価 令和元 年度	評価点	目標	目標値 令和 2 年度
学 童 期 ・ 思 春 期	早寝の習慣を心掛け、 心身の健康を高める	午後 10 時までに寝る習慣 がある小学生	66.5%	62.3%	2	増やす	75%以上
	早起きの習慣を付ける	午前 6 時台に起きる習慣 がある小学生	69.9%	64.9%	1		75%以上
	よく噛んで食べる 習慣を付ける	よく噛んで食べる習慣が ある小学生	70.8%	81.2%	5		75%以上

※5は目標値を達成した項目

<中間評価>

- 「よく噛んで食べる習慣がある」小学生は 81.2%で、前回調査より 10.4 ポイント増加しています。
- 「午後 10 時までに寝る習慣がある」、「午前 6 時台に起きる習慣がある」小学生は悪化の方向です。

<今後の課題>

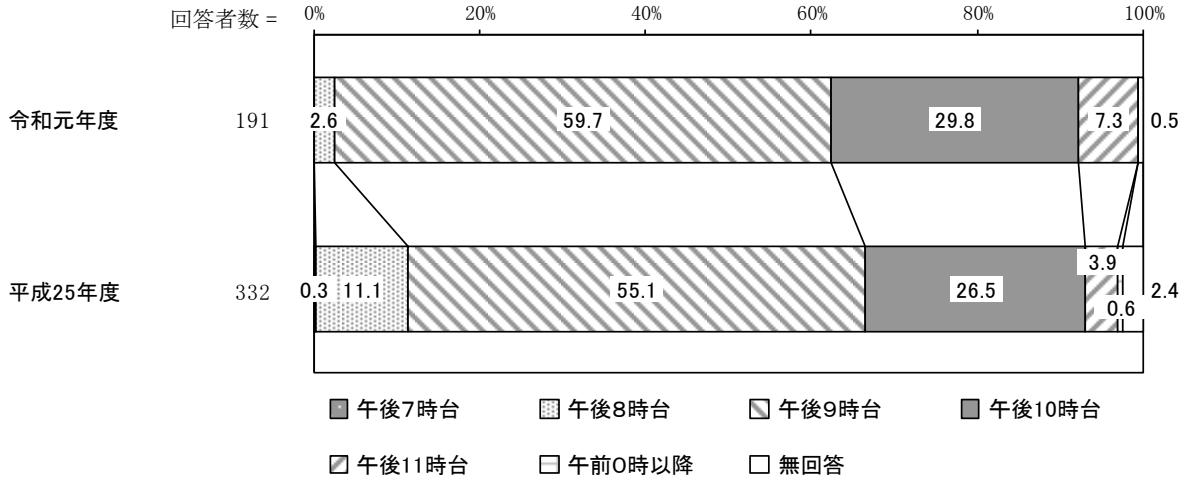
- 生活リズムの乱れが、朝食の欠食など食習慣にも影響を与えることから、早寝・早起き・朝ごはんなど、正しい生活リズムを身に付けていく必要があります。

<主なアンケート調査結果>

①就寝時間（小学生）

「午後9時台」の割合が59.7%と最も高く、次いで「午後10時台」の割合が29.8%となっています。

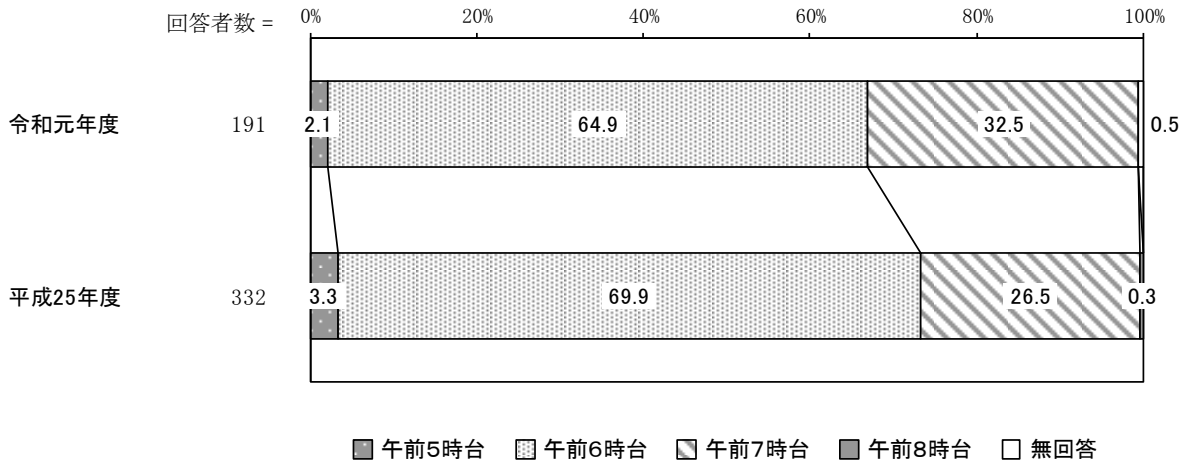
前回調査と比較すると、「午後8時台」の割合が減少しています。



②起床時間（小学生）

「午前6時台」の割合が64.9%と最も高く、次いで「午前7時台」の割合が32.5%となっています。

前回調査と比較すると、「午前7時台」の割合が増加しています。



【成人期】

みんなの願い 健康診査・がん検診を受けよう

	指標		平成 25 年度	中間評価 令和元 年度	評価点	目標	目標値 令和 2 年度	
成人期	特定健康診査	受診率	32.4%	33.1%	3	増やす	60%以上	
	長寿健康診査	受診率	36.8%	38.1%	3		37%以上	
	がん検診	受診率	26.6%	24.5%	2		30%以上	
	体重をコントロール する	肥満男性		28.4%	23.0%	5	減らす	25%以下
		肥満女性		13.6%	18.8%	1		15%以下
		やせ 20～30 歳代女性		20.9%	19.6%	3		15%以下
	夕食以降の飲食回数を減らす	夕食以降の甘味飲料や食べ物の摂取がない		40.0%	38.3%	3	増やす	60%以上
ロコモティブシンドローム（運動器症候群）の認知度			—	50.1%	—	80%以上		

※5は目標値を達成した項目

<中間評価>

- 夕食以降の甘味飲料や食べ物の摂取がない人は前回調査より 1.7 ポイント減少しています。
- ロコモティブシンドロームを知っている人は、約 5 割となっています。

<今後の課題>

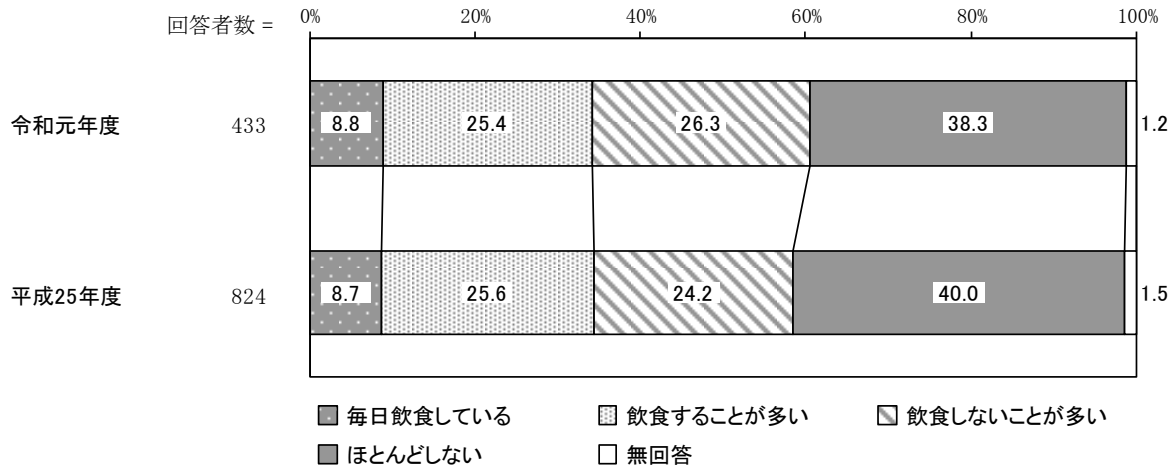
- ロコモティブシンドローム予防の普及啓発を行い、就労や社会参加を通じた身体活動などにより、運動機能の維持向上を図ることが必要です。

＜主なアンケート調査結果＞

①夕食以降に甘味飲料を飲んだり、食べ物を食べたりしているか

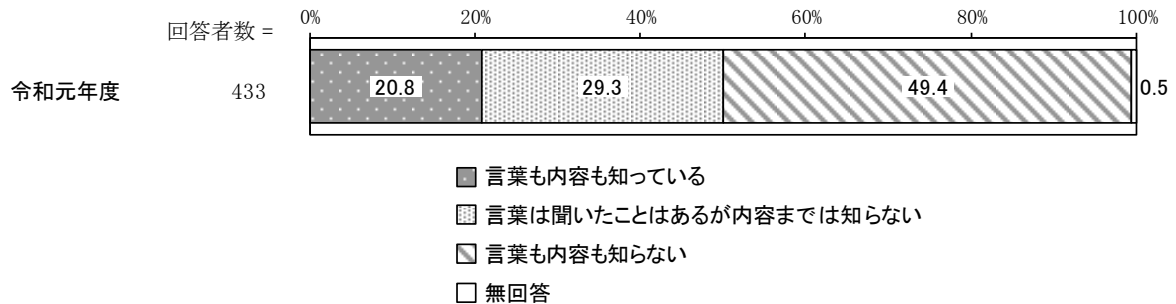
「ほとんどしない」の割合が38.3%と最も高く、次いで「飲食しないことが多い」の割合が26.3%、「飲食することが多い」の割合が25.4%となっています。

前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。



②ロコモティブシンドローム（運動器症候群）の認知度

「言葉も内容も知らない」の割合が49.4%と最も高く、次いで「言葉は聞いたことはあるが内容までは知らない」の割合が29.3%、「言葉も内容も知っている」の割合が20.8%となっています。



(2) 飲酒・喫煙

【乳幼児期】

みんなの願い 受動喫煙をなくそう

	指標	平成 25 年度	中間評価 令和元 年度	評価点	目標	目標値 令和 2 年度
乳 幼 児 期	家庭での分煙、禁煙に 対する配慮をしてい る（同居者に喫煙者が いる家庭） 乳幼児の保護者	87.2%	92.5%	5	増やす	100%

<中間評価>

○家庭での分煙、禁煙に対する配慮をしている乳幼児の保護者は前回調査より 5.3 ポイント増加しています。

<今後の課題>

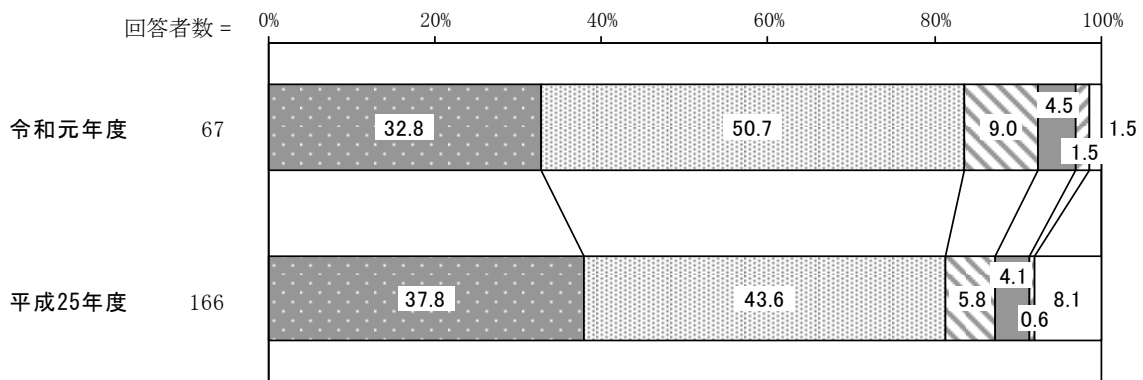
○喫煙による子どもへの影響について正しく理解し、正しい喫煙マナーの周知と、周囲への配慮が必要です。

<主なアンケート調査結果>

①お子さんのいる家庭での分煙・禁煙について

「家の中では吸わない」の割合が 50.7%と最も高く、次いで「室内での喫煙場所を決める」の割合が 32.8%となっています。

前回調査と比較すると、「家の中では吸わない」の割合が 7.1 ポイント増加し、「室内での喫煙場所を決める」の割合が 5.0 ポイント減少しています。



- 室内での喫煙場所を決める
- 家の中では吸わない
- 子どもの見ている前では吸わないようにする
- 特に配慮は必要ない
- その他
- 無回答

【学童期・思春期】

みんなの願い 飲酒・喫煙の健康被害を知ろう

	指標		平成 25 年度	中間評価 令和元 年度	評価点	目標	目標値 令和 2 年度
学 童 期 ・ 思 春 期	家庭内での分煙、禁煙 に対する配慮をしている	小学生の家庭	93.0%	90.9%	3	増やす	100%
	未成年者の喫煙	「吸ったことがある」 中学生・高校生	1.2%	1.7%	3	減らす	0%
	人が吸っている たばこの煙	「やめて欲しい」 小学生	92.8%	91.1%	3	増やす	100%
		「場所を考えて吸 って欲しい(分煙 してほしい)」 中学生	87.0%	75.7%	1		100%
		高校生	87.9%	90.1%	4		100%
	喫煙・受動喫煙が及ぼ す影響を理解してい る(中学生・高校生)	肺がん	96.2%	94.6%	3	100%	
		妊娠に関連した異常	59.7%	58.2%	3	100%	
未成年者の飲酒	「飲んだことがある」 中学生・高校生	13.2%	6.7%	5	減らす	0%	

<中間評価>

- 人が吸っているたばこの煙について、「やめて欲しい」「場所を考えて吸って欲しい(分煙してほしい)」割合は、中学生で評価点1点と悪化の方向です。
- 「喫煙が及ぼす健康影響について、理解している割合」の学童期・思春期は、悪化の方向が見られます。
- お酒を飲んだことがある中学生・高校生は6.7%で、前回調査より6.5ポイント減少しています。

<今後の課題>

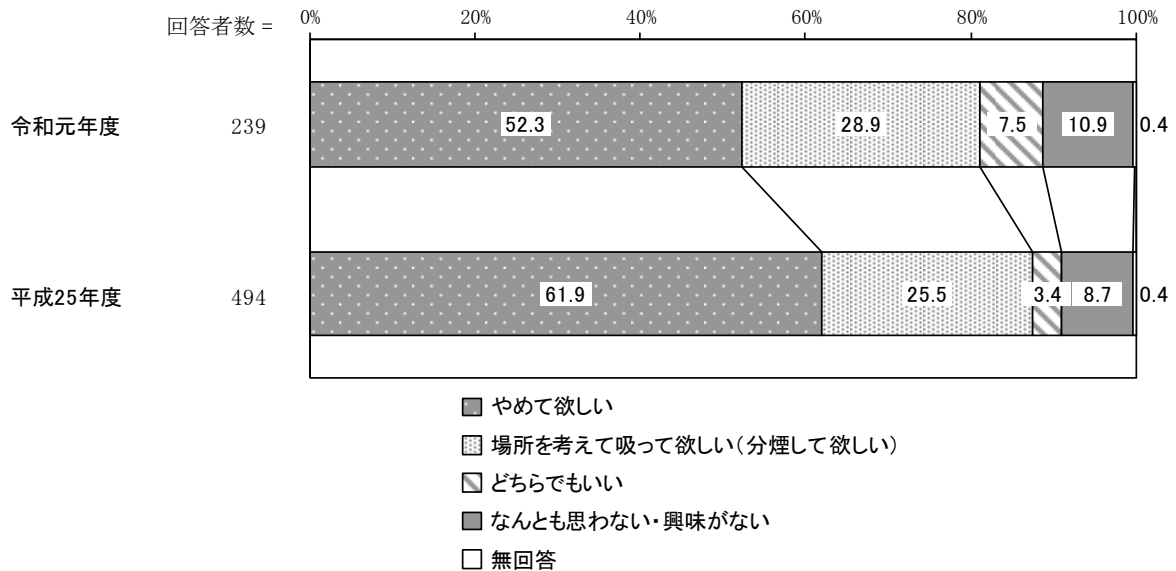
- たばこの影響を正しく理解し、地域や家庭内等での受動喫煙に配慮するなど、子どもにたばこをふれさせない環境づくりが必要です。
- 飲酒についても喫煙と同様、周囲からの影響を受けるため、アルコールが体に及ぼす影響について親子で正しく理解し、未成年者の飲酒を防止することが必要です。

<主なアンケート調査結果>

①人が吸っているたばこの煙について（中学生・高校生）

「やめて欲しい」の割合が52.3%と最も高く、次いで「場所を考えて吸って欲しい(分煙して欲しい)」の割合が28.9%、「なんとも思わない・興味がない」の割合が10.9%となっています。

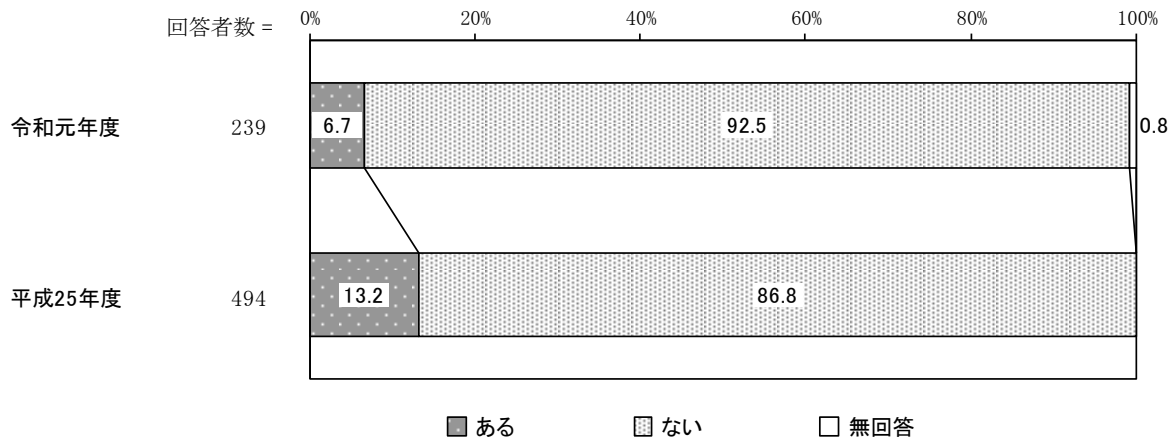
前回調査と比較すると、「やめて欲しい」の割合が9.6ポイント減少しています。



②お酒（アルコール類）を飲んだことがあるか（中学生・高校生）

「ある」の割合が6.7%、「ない」の割合が92.5%となっています。

前回調査と比較すると、「ある」の割合が6.5ポイント減少し、「ない」の割合が5.7ポイント増加しています。



【成人期】

みんなの願い 適度な飲酒に心掛け禁煙に取り組もう

	指標		平成 25 年度	中間評価 令和元 年度	評価点	目標	目標値 令和 2 年度
成人期	喫煙の割合		15.5%	15.9%	3	減らす	15%以下
	禁煙の意向	「すぐにでも禁煙したい」	7.8%	11.6%	4	増やす	12%以上
	人が吸っている たばこの煙	「やめて欲しい」「場所を考 えて吸って欲しい(分煙し てほしい)」	76.4%	81.9%	5		80%以上
	COPD（慢性閉塞性肺疾患）の認知度		—	50.6%	—		80%以上
	喫煙・受動喫煙が及ぼ す影響を理解してい る	肺がん	93.6%	93.1%	3	増やす	100%
		妊娠に関連した異常	58.1%	58.7%	3		100%
	多量飲酒者	男性	5.7%	5.7%*	3	減らす	5%以下
		女性	1.2%	9.3%*	1		0%
適切な飲酒量を知っている		35.7%	29.1%	1	増やす	100%	

※5は目標値を達成した項目

*多量飲酒者：一日当たりの純アルコール摂取量が 60 g 以上の者

<中間評価>

- 人が吸っているたばこの煙について、「やめて欲しい」「場所をを考えて吸って欲しい（分煙してほしい）」割合は、81.9%で、前回調査より 5.5 ポイント増加しています。
- COPD（慢性閉塞性肺疾患）を知っている人は、約 5 割となっています。
- 多量飲酒者の女性の割合が増加しています。
- 適切な飲酒量を知っている人は 29.1%で、前回調査より 6.6 ポイント減少しています。

<今後の課題>

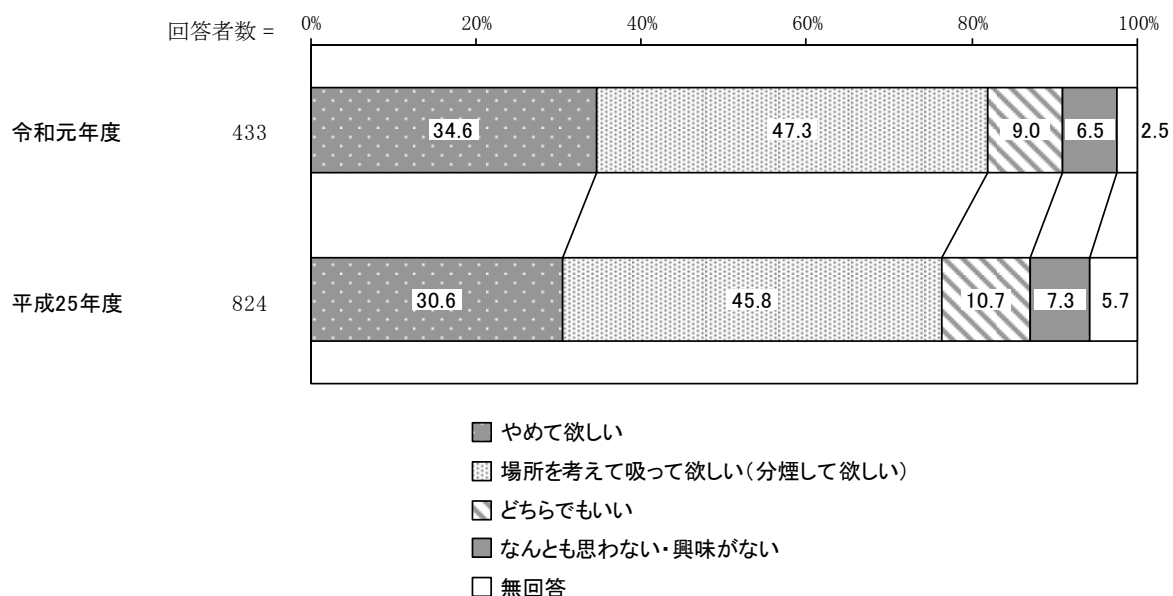
- 喫煙が健康に及ぼす影響の理解やCOPD（慢性閉塞性肺疾患）についての啓発が必要です。
- 飲酒が体に及ぼす影響についての知識を身につけ、適切な飲酒量を知ることが必要です。

＜主なアンケート調査結果＞

①人が吸っているたばこの煙について

「場所を考えて吸って欲しい（分煙して欲しい）」の割合が 47.3%と最も高く、次いで「やめて欲しい」の割合が 34.6%となっています。

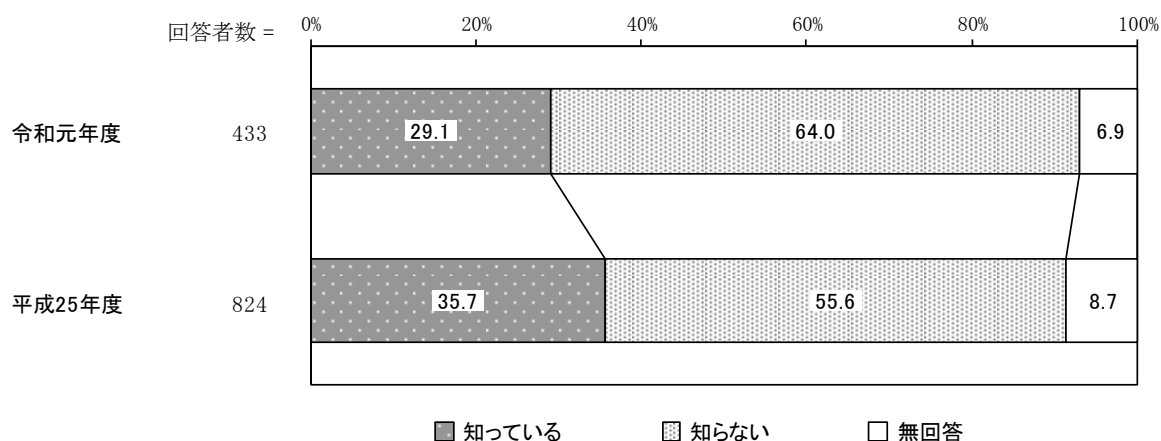
前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。



②適切な飲酒量の目安を知っているか

「知っている」の割合が 29.1%、「知らない」の割合が 64.0%となっています。

前回調査と比較すると、「知っている」の割合が 6.6 ポイント減少し、「知らない」の割合が 8.4 ポイント増加しています。



(3) 食の安全・安心

【乳幼児期】

みんなの願い 食に関心を持って楽しく食事をしよう

	指標		平成 25 年度	中間評価 令和元 年度	評価点	目標	目標値 令和 2 年度
乳 幼 児 期	手洗い・うがいの励 行	「必ずしている」乳幼児	57.6%	47.2%	1	増やす	100%
	食品を購入するときに 重視すること (乳幼児の保護者)	新鮮さ	85.8%	78.9%	1		90%以上
		賞味・消費期限	66.8%	68.8%	4		75%以上
	家族と一緒に食事をする 回数	1日2回以上、家族と食事をする	84.0%	82.1%	3		90%以上

<中間評価>

- 手洗い・うがいを「必ずしている」幼児は 47.2%で、前回調査より 10.4 ポイント減少しています。
- 食品を購入するときに重視することとして、「新鮮さ」の割合は 78.9%で、前回調査より 6.9 ポイント減少しています。

<今後の課題>

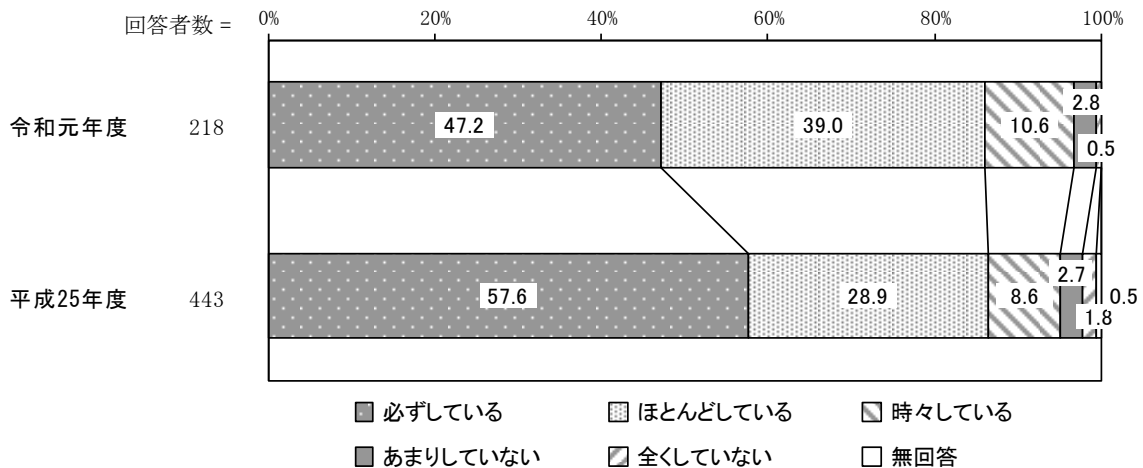
- 安全な食品や食品衛生に関する知識を持ち、食品を選択する力を身に付けていくことが必要です。
- 家族で食卓を囲む機会を増やしていくことが必要です。
- 手洗い・うがいは病気予防の第一歩となりますので、外出から帰ったら正しい手の洗い方やうがいを習慣にできるように身に付けることが重要です。

＜主なアンケート調査結果＞

①外出先から帰った時、手洗い・うがいをしているか

「必ずしている」の割合が47.2%と最も高く、次いで「ほとんどしている」の割合が39.0%、「時々している」の割合が10.6%となっています。

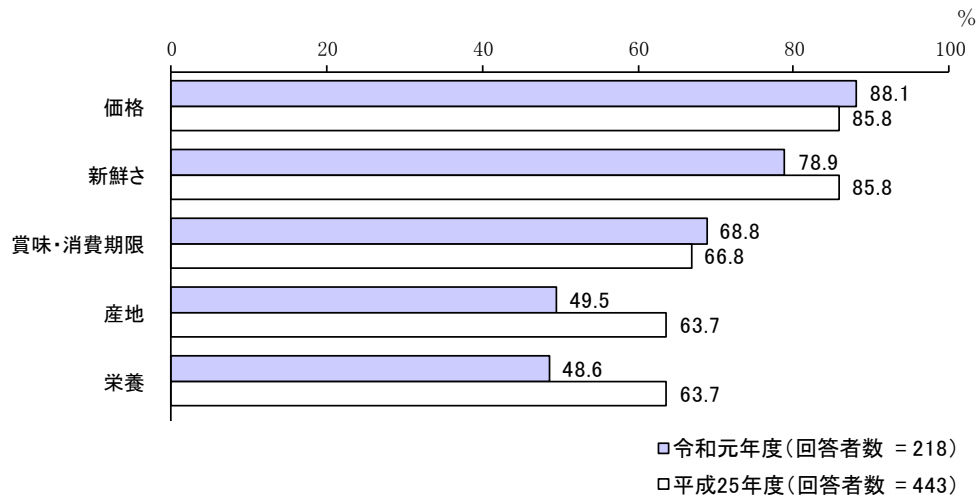
前回調査と比較すると、「ほとんどしている」の割合が10.1ポイント増加し、「必ずしている」の割合が10.4ポイント減少しています。



②食品を購入するときに何を重視しているか（上位5項目）

「価格」の割合が88.1%と最も高く、次いで「新鮮さ」の割合が78.9%、「賞味・消費期限」の割合が68.8%となっています。

前回調査と比較すると、「新鮮さ」の割合が6.9ポイント、「産地」の割合が14.2ポイント、「栄養」の割合が15.1ポイント減少しています。



【学童期・思春期】

みんなの願い 食の正しい知識・選択する力を育もう

	指標		平成 25 年度	中間評価 令和元 年度	評価点	目標	目標値 令和 2 年度
学童期・思春期	手洗い・うがいの励行	「必ずしている」	小学生	52.1%	52.4%	3	100%
			中学生・高校生	43.3%	44.4%	3	100%
	食品を購入するときに重視すること (小学生の保護者)	新鮮さ		86.1%	87.4%	3	95%以上
		賞味・消費期限		73.8%	72.8%	3	85%以上
		栄養成分表示		13.9%	14.1%	3	20%以上
	食に関する適切な情報を利用する	中学生		10.7%	12.2%	3	15%以上
		高校生		10.3%	14.3%	4	15%以上

<中間評価>

- 食に関する適切な情報を利用する高校生は 14.3%で、前回調査より 4.0 ポイント増加しています。
- 小学生の保護者が食品を購入するときに重視することとして、「賞味・消費期限」の割合は 72.8%で、前回調査より 1.0 ポイント減少しています。

<今後の課題>

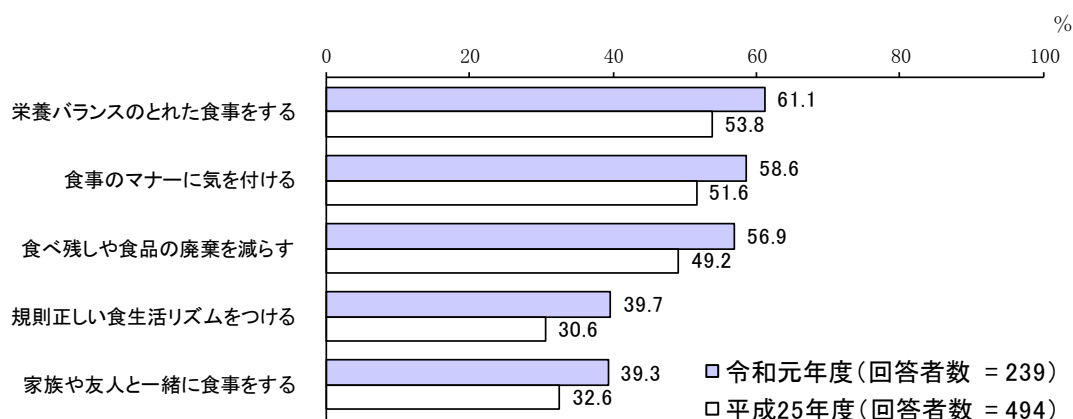
- 食の安全・安心に関する正しい知識と選択力を身に付けていくことが必要です。

＜主なアンケート調査結果＞

①今後の食生活で、どのような事に気を付けたいと思うか【上位5項目】（中学生・高校生）

「栄養バランスのとれた食事をする」の割合が61.1%と最も高く、次いで「食事のマナーに気を付ける」の割合が58.6%、「食べ残しや食品の廃棄を減らす」の割合が56.9%となっています。

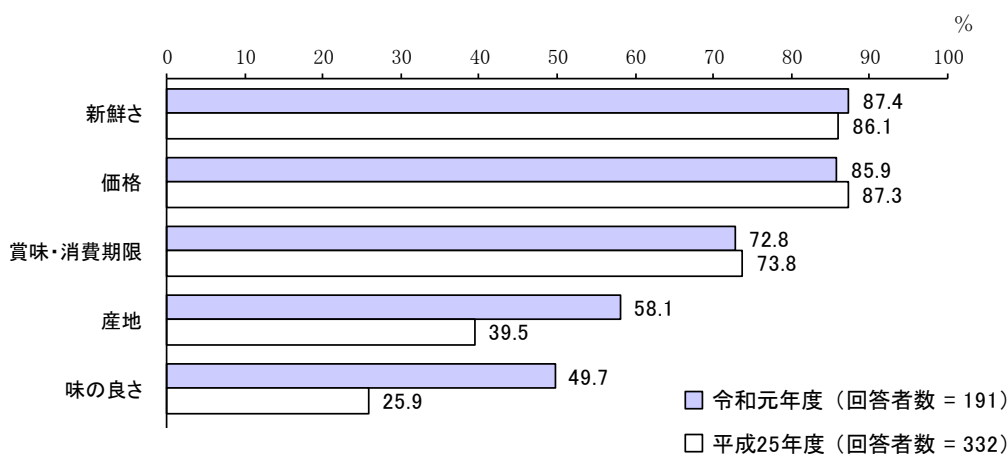
前回調査と比較すると、「栄養バランスのとれた食事をする」の割合が7.3ポイント、「食事のマナーに気を付ける」の割合が7.0ポイント、「食べ残しや食品の廃棄を減らす」の割合が7.7ポイント、「規則正しい食生活リズムをつける」の割合が9.1ポイント、「家族や友人と一緒に食事をする」の割合が6.7ポイント増加しています。



②食品を購入するときに何を重視しているか【上位5項目】（小学生）

「新鮮さ」の割合が87.4%と最も高く、次いで「価格」の割合が85.9%、「賞味・消費期限」の割合が72.8%となっています。

前回調査と比較すると、「産地」「味の良さ」の割合が増加しています。



【成人期】

みんなの願い 安全な食品を選ぼう

	指標		平成 25 年度	中間評価 令和元 年度	評価点	目標	目標値 令和 2 年度
成人期	手洗い・うがいの励行	「必ずしている」	48.4%	47.1%	3	増やす	100%
	食品を購入するときに重視すること	新鮮さ	86.4%	78.3%	1		90%以上
		賞味・消費期限	72.9%	68.8%	2		80%以上
		栄養成分表示	17.8%	14.1%	2		20%以上
	食に関する適切な情報を利用する	実践している	18.0%	18.2%	3		20%以上

<中間評価>

- 食品を購入するときに重視することとして、「新鮮さ」の割合は、評価点1点と悪化の方向です。
- 食品を購入するときに重視することとして、「賞味・消費期限」の割合は68.8%で、前回調査より4.1ポイント、「栄養成分表示」の割合は14.1%で、前回調査より3.7ポイント減少しています。

<今後の課題>

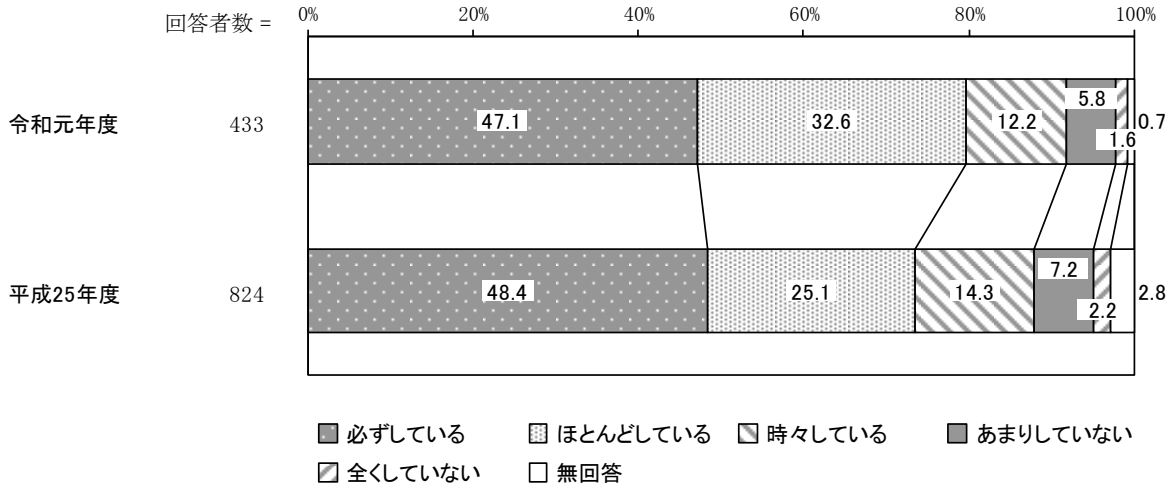
- 食の安全・安心に関する正しい知識と選択力を身に付けていくことが必要です。

＜主なアンケート調査結果＞

①外出先から帰った時、手洗い・うがいをしているか

「必ずしている」の割合が47.1%と最も高く、次いで「ほとんどしている」の割合が32.6%、「時々している」の割合が12.2%となっています。

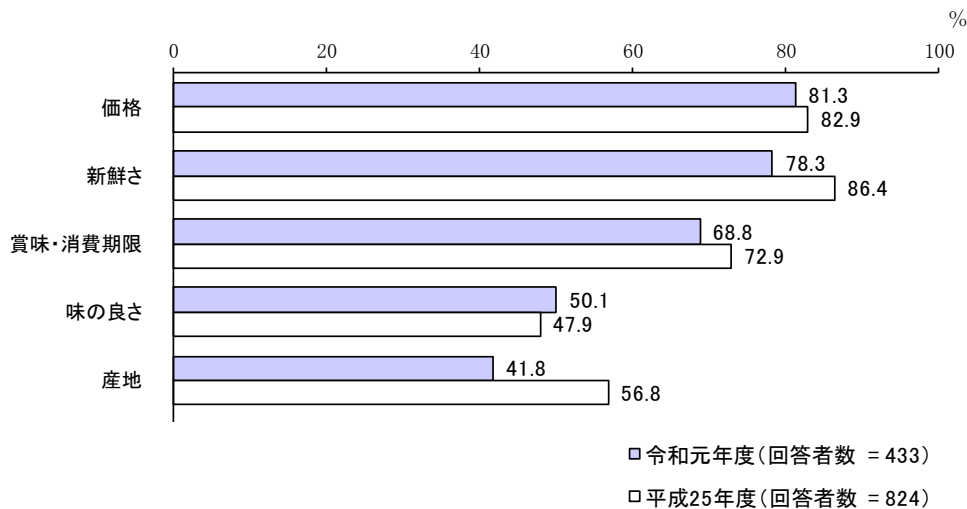
前回調査と比較すると、「ほとんどしている」の割合が7.5ポイント増加しています。



②食品を購入するときに何を重視しているか（上位5項目）

「価格」の割合が81.3%と最も高く、次いで「新鮮さ」の割合が78.3%、「賞味・消費期限」の割合が68.8%となっています。

前回調査と比較すると、「新鮮さ」の割合が8.1ポイント、「産地」の割合が15.0ポイント減少しています。



(4) 食への感謝と地産地消

【乳幼児期】

みんなの願い 食事のあいさつをしっかりとしよう

	指標		平成 25 年度	中間評価 令和元 年度	評価点	目標	目標値 令和 2 年度
乳 幼 児 期	農業体験	ふれあう機会がない	28.4%	24.3%	4	減らす	25%以下
	調理や保存を上手にし、 無駄や廃棄を少なくす る努力をしている	「できている」「だいたい できている」乳幼児の保 護者	79.7%	88.0%	5	増やす	80%以上
	食事のあいさつ（「いた だきます」「ごちそうさ ま」）をしている	「必ずしている」幼児	56.9%	53.2%	2		80%以上

※4 5は目標値を達成した項目

<中間評価>

- 調理や保存を上手にし、無駄や廃棄を少なくする努力を「できている」「だいたいできている」乳幼児保護者の割合は、評価点5点と改善の方向です。
- 食事のあいさつを「必ずしている」幼児の割合は53.2%で、前回調査より3.7ポイント減少しています。

<今後の課題>

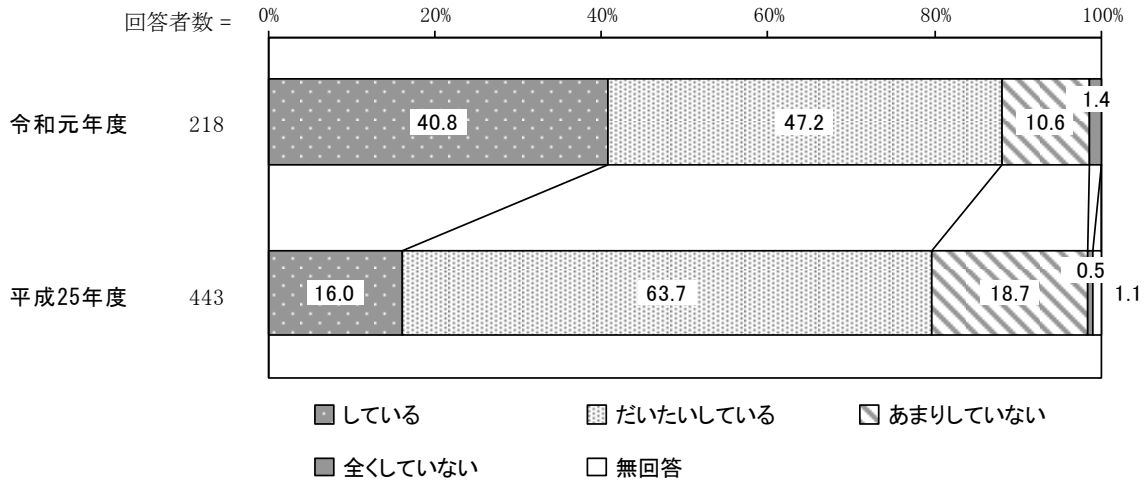
- 食への感謝の気持ちやマナーを身に付けていくことが必要です。

＜主なアンケート調査結果＞

①調理や保存を上手にし、食べ残しや食品の廃棄を少なくする努力をしているか

「している」と「だいたいしている」をあわせた“している”の割合が88.0%、「あまりしていない」と「全くしていない」をあわせた“していない”の割合が12.0%となっています。

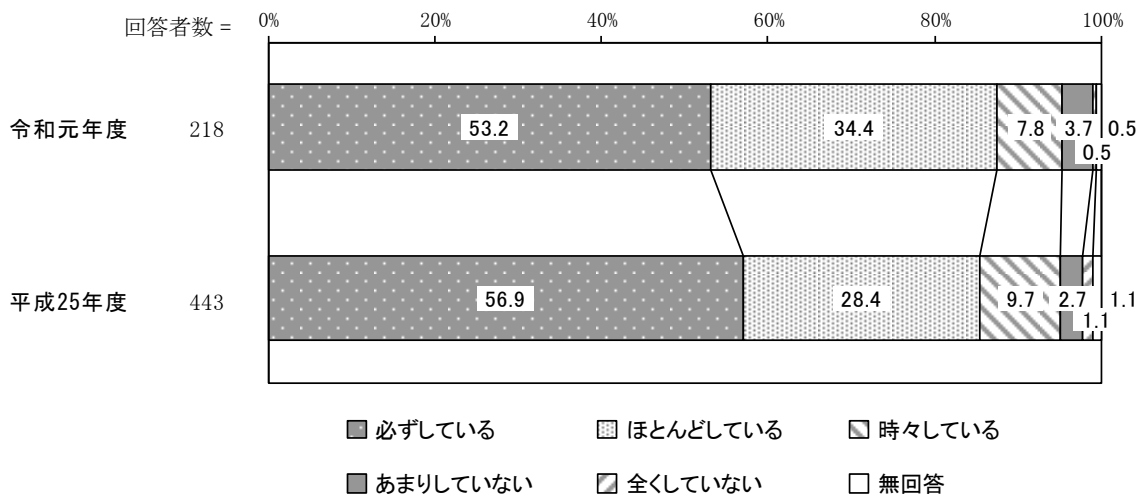
前回調査と比較すると、“している”の割合が8.3ポイント増加し、“していない”の割合が7.2ポイント減少しています。



②食事の時に「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつをしているか

「必ずしている」の割合が53.2%と最も高く、次いで「ほとんどしている」の割合が34.4%となっています。

前回調査と比較すると、「ほとんどしている」の割合が6.0ポイント増加しています。



【学童期・思春期】

みんなの願い 地元特産物を感謝して食べよう

	指標		平成 25 年度	中間評価 令和元 年度	評価点	目標	目標値 令和 2 年度	
学童期・思春期	農業体験をしたことがある	小学生	85.8%	90.6%	4	増やす	90%以上	
		中学生	87.8%	79.7%	1		90%以上	
		高校生	73.7%	75.8%	4		85%以上	
	調理や保存を上手にし、無駄や廃棄を少なくする努力をしている	「できている」「だいたいできている」	小学生の保護者	84.3%	93.7%		5	90%以上
			中学生	84.4%	84.5%		3	90%以上
			高校生	77.2%	84.6%		5	80%以上
	食事のあいさつ（「いただきます」「ごちそうさま」）をしている	「必ずしている」	小学生	63.9%	59.2%		2	85%以上
			中学生	63.4%	62.8%		3	70%以上
			高校生	47.4%	58.2%		5	50%以上

※4 5は目標値を達成した項目

<中間評価>

- 農業体験をしたことがある中学生の割合は、評価点1点と悪化の方向です。
- 食事のあいさつを「必ずしている」小学生の割合は59.2%で、前回調査より4.7ポイント減少しています。

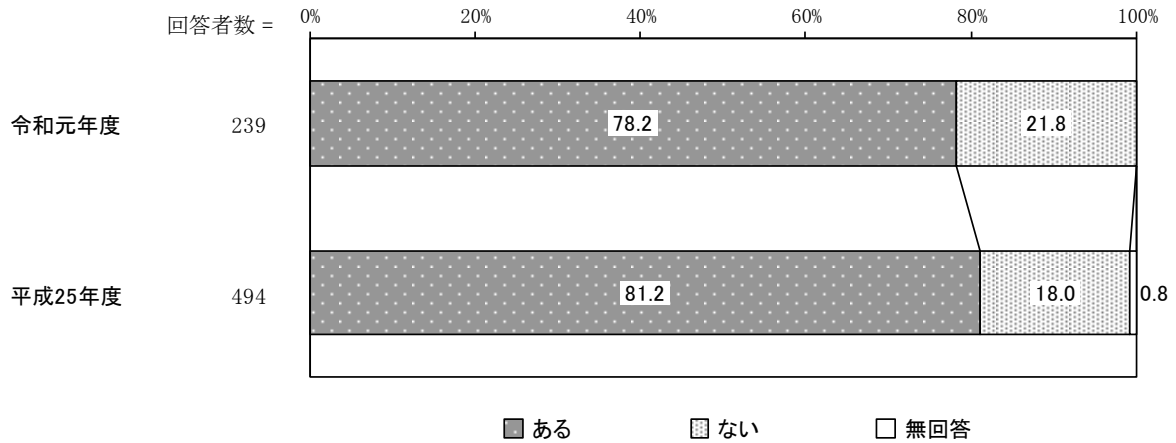
<今後の課題>

- 食に対する興味や関心を持ち、感謝しながら食事をすることを目指すためにも、栽培や収穫、調理など様々な食の体験をしていくことが必要です。

＜主なアンケート調査結果＞

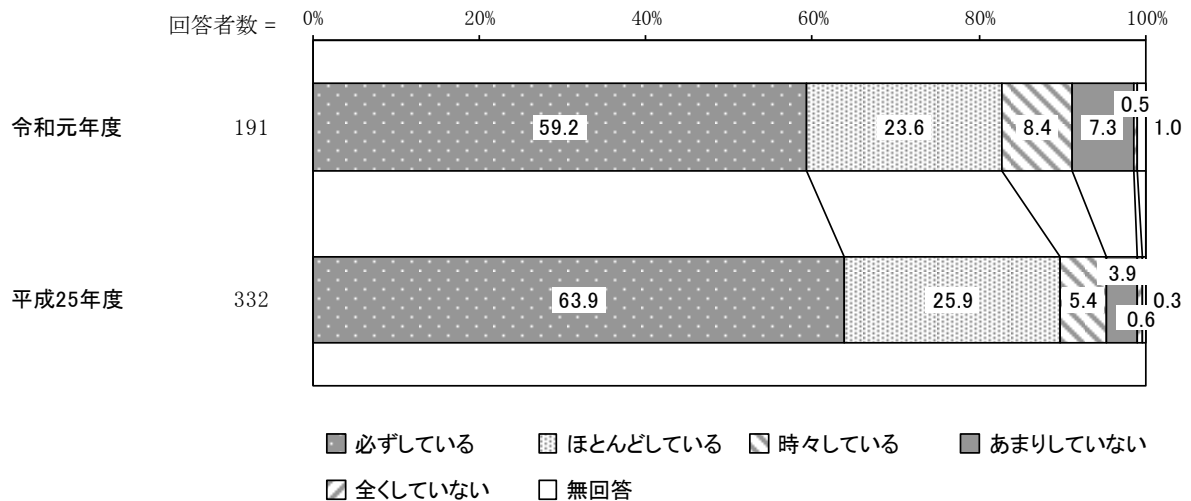
①野菜作りなど農業体験をしたことがあるか（中学生・高校生）

「ある」の割合が78.2%、「ない」の割合が21.8%となっています。
 前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。



②食事の時に「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつをしているか（小学生）

「必ずしている」の割合が59.2%と最も高く、次いで「ほとんどしている」の割合が23.6%となっています。
 前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【成人期】

みんなの願い 地元食材を無駄なく活用しよう

	指標	平成 25 年度	中間評価 令和元 年度	評価点	目標	目標値 令和 2 年度
成人期	農業体験をしたことがある	60.3%	59.8%	3	増やす	75%以上
	調理や保存を上手にし、 無駄や廃棄を少なくする 努力をしている	77.6%	90.1%	5		80%以上
	(厚木産を意識した) 地 場産物の購入をしている	20.1%	18.0%	2		30%以上

※5は目標値を達成した項目

<中間評価>

- 調理や保存を上手にし、無駄や廃棄を少なくする努力を「できている」「だいたいできている」割合は、評価点5点と改善の方向です。
- 地場産物の購入を「実践したい」割合は18.0%で、前回調査より2.1ポイント減少しています。

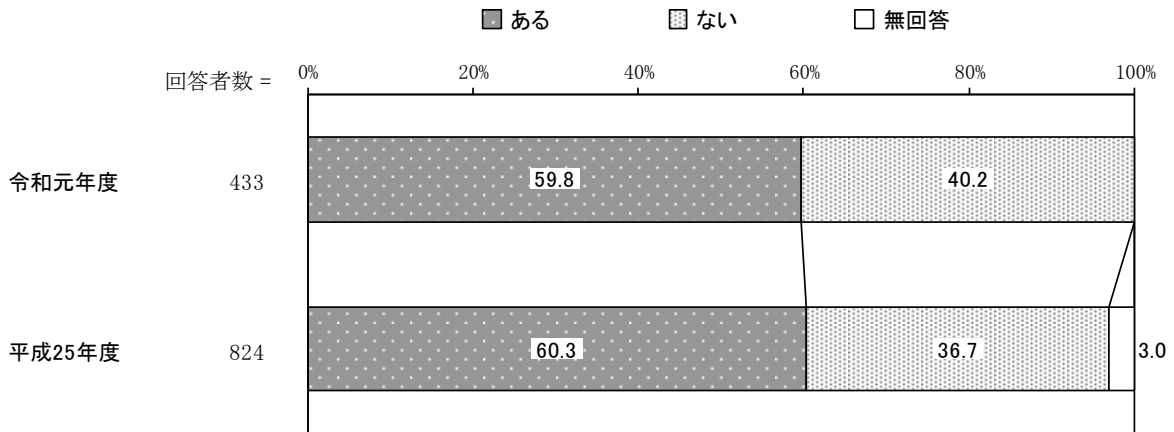
<今後の課題>

- 地元食材を理解してもらうための情報を提供していく必要があります。

＜主なアンケート調査結果＞

①農業体験（田植えや稲刈り、家庭菜園など）をしたことがあるか

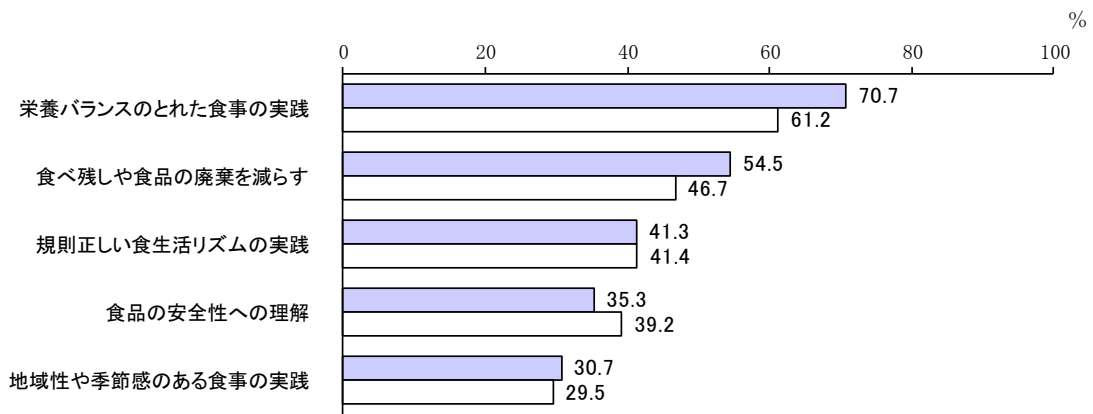
「ある」の割合が59.8%、「ない」の割合が40.2%となっています。
 前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。



②今後の食生活で、特にどのような面に気を付けたいと思うか【上位5項目】

「栄養バランスのとれた食事の実践」の割合が70.7%と最も高く、次いで「食べ残しや食品の廃棄を減らす」の割合が54.5%、「規則正しい食生活リズムの実践」の割合が41.3%となっています。

前回調査と比較すると、「栄養バランスのとれた食事の実践」の割合が9.5ポイント、「食べ残しや食品の廃棄を減らす」の割合が7.8ポイント増加しています。



□ 令和元年度(回答者数 = 433)

□ 平成25年度(回答者数 = 824)

(5) 栄養・食生活

【乳幼児期】

みんなの願い 規則正しい習慣を身に付け生活リズムを整えよう

	指標		平成 25 年度	中間評価 令和元 年度	評価点	目標	目標値 令和 2 年度
乳 幼 児 期	朝食を毎日食べる	実行できている乳幼児	91.2%	92.2%	3	増やす	100%
	バランスの良い食事を心掛けている	乳幼児の保護者	91.2%	90.4%	3		95%以上
	子どもの頃から薄味でおいしく食べる	大人の半分以下の濃さの味付けが実行できている乳幼児の保護者	28.6%	29.4%	3		30%以上
	早寝の習慣を付ける	午後9時までに寝る習慣がある乳幼児	28.4%	33.0%	4		65%以上
	早起きの習慣を付ける	午前7時台に起きる習慣がある乳幼児	47.0%	41.7%	1		65%以上

<中間評価>

- 午前7時台に起きる習慣がある乳幼児の割合は減少していますが、午前6時台に起きる習慣がある乳幼児は増加しています。
- バランスの良い食事を心掛けている乳幼児保護者の割合は90.4%で、前回調査より0.8ポイント減少しています。

<今後の課題>

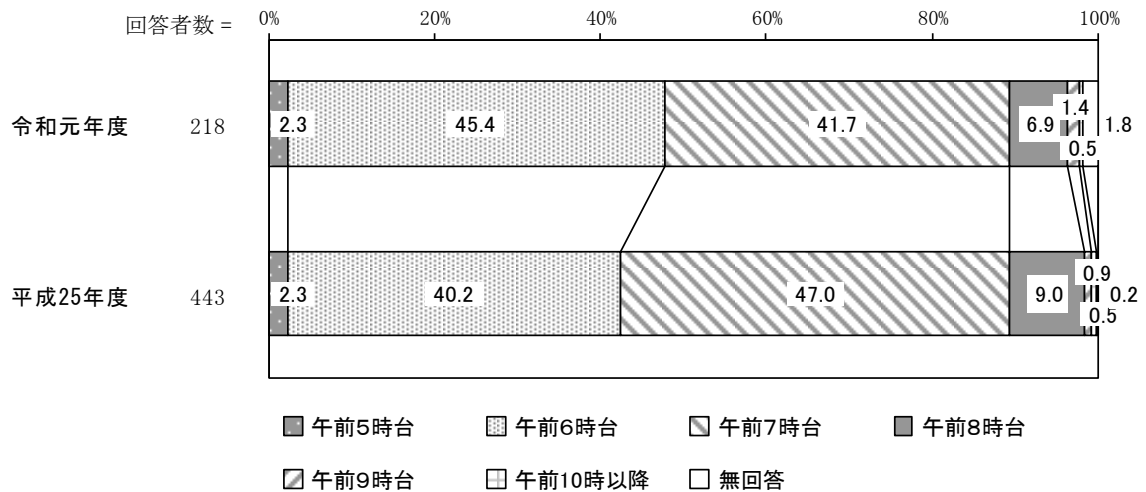
- 早寝早起きをして、しっかり朝食を食べるなど生活リズムを身に付けていくことが必要です。

<主なアンケート調査結果>

①起床時間

「午前6時台」の割合が45.4%と最も高く、次いで「午前7時台」の割合が41.7%となっています。

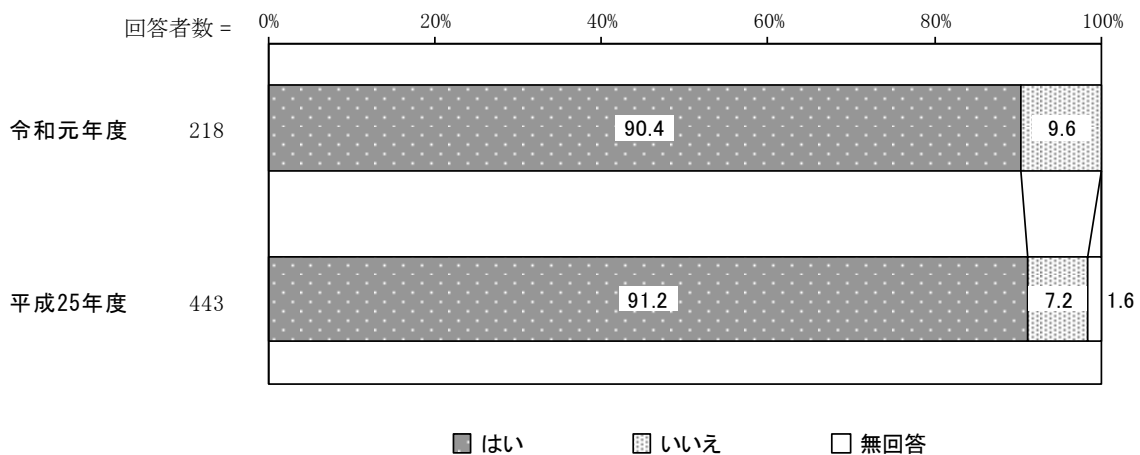
前回調査と比較すると、「午前6時台」の割合が5.2ポイント増加し、「午前7時台」の割合が5.3ポイント減少しています。



②バランス良く食べさせるように心掛けているか

「はい」の割合が90.4%、「いいえ」の割合が9.6%となっています。

前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【学童期・思春期】

みんなの願い 1日3食おいしく楽しくしっかり食べよう

	指標			平成25年度	中間評価 令和元年度	評価点	目標	目標値 令和2年度
学童期・思春期	朝食を毎日食べる	実行できている	小学生	92.5%	95.3%	4	増やす	100%
			中学生	85.1%	84.5%	3		100%
			高校生	78.4%	69.2%	1		80%以上
	家族と一緒に食事 をしている	小学生		94.0%	93.7%	3	増やす	100%
		中学生（夕食）		90.8%	87.8%	2		95%以上
		中学生（朝食）		56.1%	54.7%	3		60%以上
		高校生（夕食）		80.2%	83.5%	4		85%以上
		高校生（朝食）		34.1%	38.5%	4		40%以上
	野菜を積極的に食べる	「野菜不足を感じている」	中学生	36.0%	30.4%	5	減らす	25%以下
			高校生	43.1%	29.7%	5		25%以下
	バランスの良い食事を心掛けている	小学生		80.7%	81.7%	3	増やす	90%以上
		中学生		74.8%	85.8%	5		80%以上
		高校生		73.7%	78.0%	4		80%以上
早寝の習慣を心掛け、心身の健康を高める	午後10時までに寝る小学生		66.5%	62.3%	2		75%以上	
早起きの習慣を付ける	午前6時台に起きる習慣がある小学生		69.9%	64.9%	1		75%以上	

<中間評価>

○「野菜不足を感じている」「バランスの良い食事を心掛けている」中学生・高校生の割合は改善の方向です。

<今後の課題>

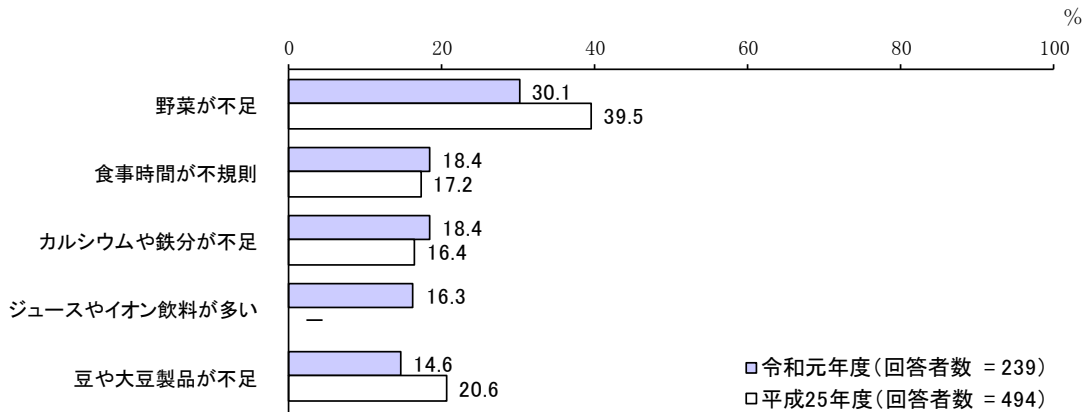
○健全な食生活を実践できるよう、啓発を行っていくことが必要です。

＜主なアンケート調査結果＞

①食事の問題点はどんなことだと思うか【上位5項目】（中学生・高校生）

「野菜が不足」の割合が30.1%、「食事時間が不規則」、「カルシウムや鉄分が不足」の割合が18.4%となっています。

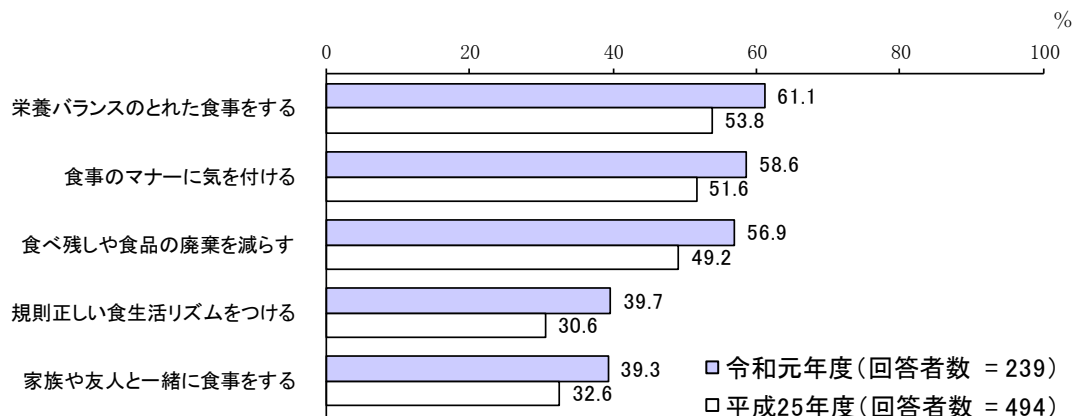
前回調査と比較すると、「野菜が不足」の割合が9.4ポイント、「豆や大豆製品が不足」の割合が6.0ポイント減少しています。



②今後の食生活で、どのような事に気を付けたいと思うか【上位5項目】（中学生・高校生）

「栄養バランスのとれた食事をする」の割合が61.1%と最も高く、次いで「食事のマナーに気を付ける」の割合が58.6%、「食べ残しや食品の廃棄を減らす」の割合が56.9%となっています。

前回調査と比較すると、「栄養バランスのとれた食事をする」の割合が7.3ポイント、「食事のマナーに気を付ける」の割合が7.0ポイント、「食べ残しや食品の廃棄を減らす」の割合が7.7ポイント、「規則正しい食生活リズムをつける」の割合が9.1ポイント、「家族や友人と一緒に食事をする」の割合が6.7ポイント増加しています。



【成人期】

みんなの願い 自分の食事の適量をバランスよく食べよう

	指標		平成 25 年度	中間評価 令和元 年度	評価点	目標	目標値 令和 2 年度
成人期	朝食を毎日食べる	実行できている	78.2%	75.1%	2	増やす	85%以上
	バランスの良い食事を心掛けている		84.7%	62.4%	1		90%以上
	家族と一緒に食事をして いる	朝食	43.8%	36.3%	1		55%以上
		夕食	66.4%	63.7%	2		85%以上
	野菜を積極的に食べる	「毎食野菜(緑黄色野菜)を 食べている」	13.6%	12.2%	3		45%以上
		「毎食野菜(緑黄色野菜以 外)を食べている」	14.9%	11.8%	2		45%以上
	塩分を控える	「塩分をとり過ぎないよう に気を付けている」	52.5%	50.6%	3		60%以上
食事の量に配慮して いる	「食べ過ぎないように気を 付けている」	59.3%	59.1%	3	65%以上		

<中間評価>

- バランスの良い食事を心掛けている割合は、評価点1点と悪化の方向です。
- 朝食を毎日食べる人の割合は75.1%で、前回調査より3.1ポイント減少しています。

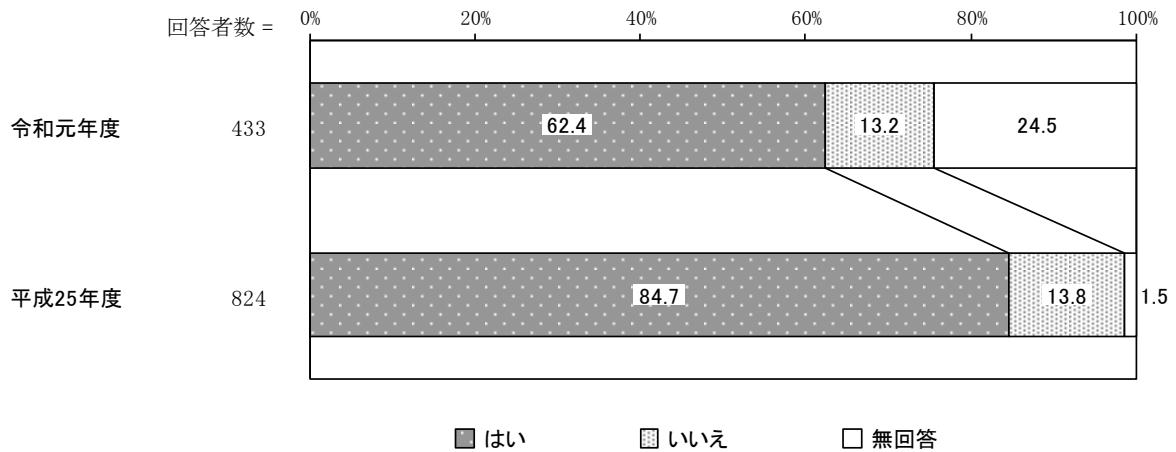
<今後の課題>

- 朝食をとることやバランスの良い食事をとることなど、望ましい食生活について習慣にすることが必要です。

＜主なアンケート調査結果＞

①バランス良く食べるよう心掛けているか

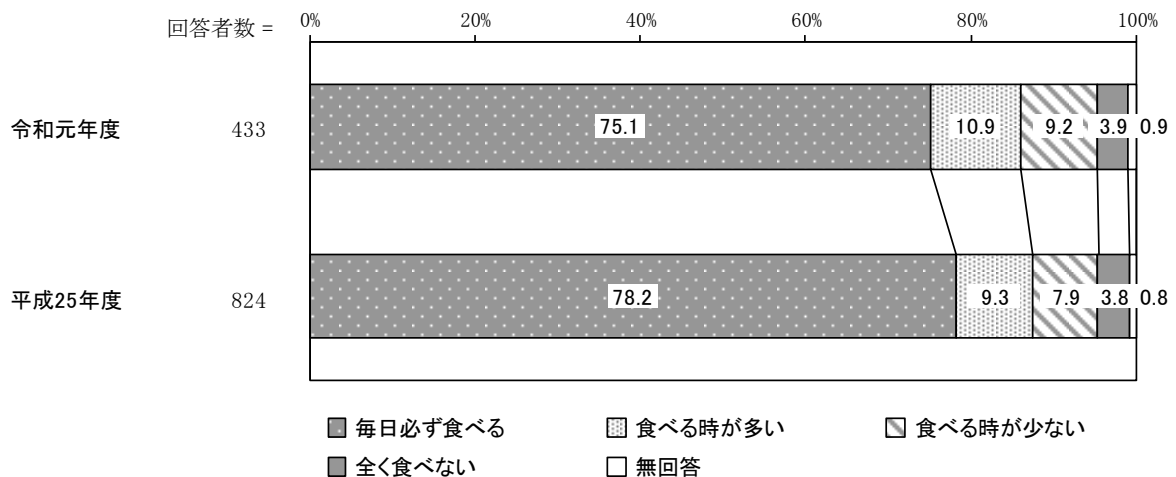
「はい」の割合が62.4%、「いいえ」の割合が13.2%となっています。
 前回調査と比較すると、「はい」の割合が22.3ポイント減少しています。



②朝食を食べるか

「毎日必ず食べる」の割合が75.1%と最も高く、次いで「食べる時が多い」の割合が10.9%となっています。

前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。



(6) 身体活動・運動

【乳幼児期】

みんなの願い 家族みんなで楽しく遊ぼう

	指標		平成 25 年度	中間評価 令和元 年度	評価点	目標	目標値 令和 2 年度
乳 幼 児 期	母親と一緒に遊ぶ	乳幼児	86.2%	84.9%	3	増やす	90%以上
	父親と一緒に遊ぶ	乳幼児	70.4%	67.9%	2		75%以上
	毎日外で遊ぶ	実行している幼児	83.1%	83.9%	3		85%以上
	テレビやビデオを見る時間を2時間以内にする	テレビやビデオを2時間以上見ている幼児	56.0%	59.6%	2	減らす	55%以下

<中間評価>

- 乳幼児と一緒に遊ぶ父親の割合は67.9%で、前回調査より2.5ポイント減少しています。
- テレビやビデオを2時間以上見ている幼児の割合は59.6%で、前回調査より3.6ポイント増加しています。

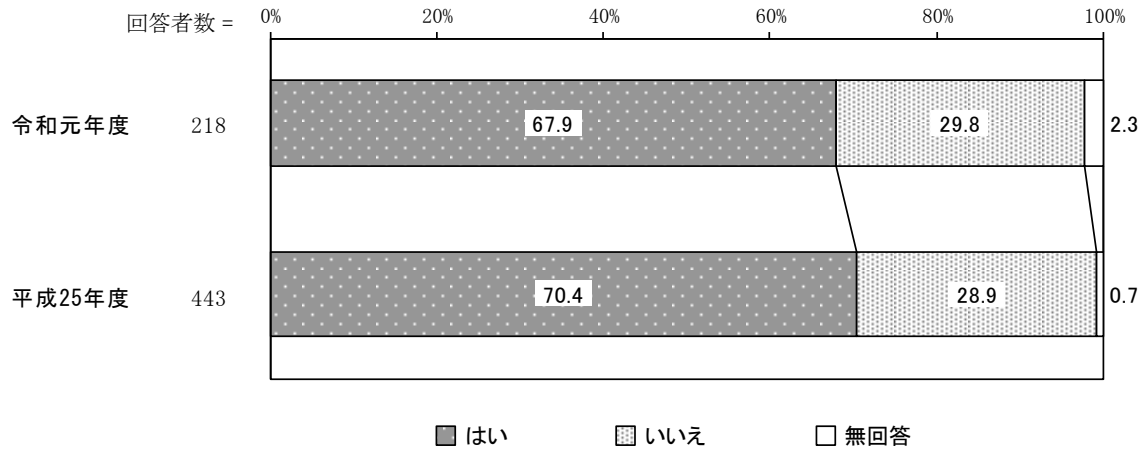
<今後の課題>

- 親子で楽しめる遊び場やイベントなどの情報を提供していく必要があります。

<主なアンケート調査結果>

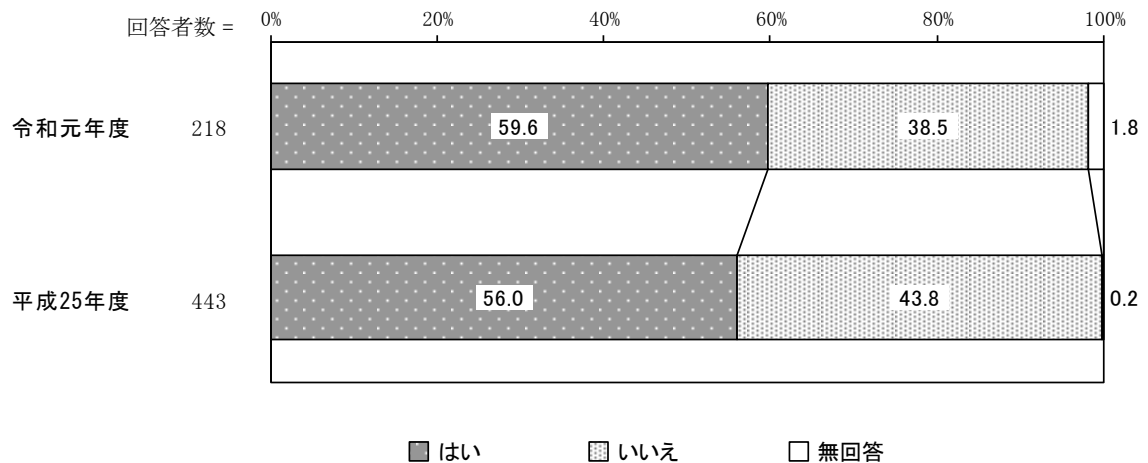
①父親と一緒に遊ぶことがよくあるか

「はい」の割合が67.9%、「いいえ」の割合が29.8%となっています。
 前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。



②テレビやビデオを見る時間やゲームの時間が合わせて1日2時間以上あるか

「はい」の割合が59.6%、「いいえ」の割合が38.5%となっています。
 前回調査と比較すると、「いいえ」の割合が5.3ポイント減少しています。



【学童期・思春期】

みんなの願い 仲間と楽しくスポーツをしよう

	指標		平成 25 年度	中間評価 令和元 年度	評価点	目標	目標値 令和 2 年度
学 童 期 ・ 思 春 期	テレビやビデオを見る時間を2時間以内にする	テレビやビデオを見る時間が2時間以上の小学生	59.3%	65.4%	1	減らす	55%以下
	同学年の子どもと遊ぶ	小学生	83.7%	78.0%	1	増やす	90%以上
	異学年の子どもと遊ぶ	小学生	77.7%	73.8%	2		80%以上
	週2回以上の運動を心掛けている	小学生	66.6%	53.9%	1		70%以上
		中学生	76.7%	81.8%	5	85%以上	
		高校生	57.8%	53.8%	2	65%以上	

<中間評価>

○テレビやビデオを見る時間が2時間以上の小学生、同学年の子どもと遊ぶ小学生、週2回以上の運動を心掛けている小学生の割合は、評価点1点と悪化の方向です。

<今後の課題>

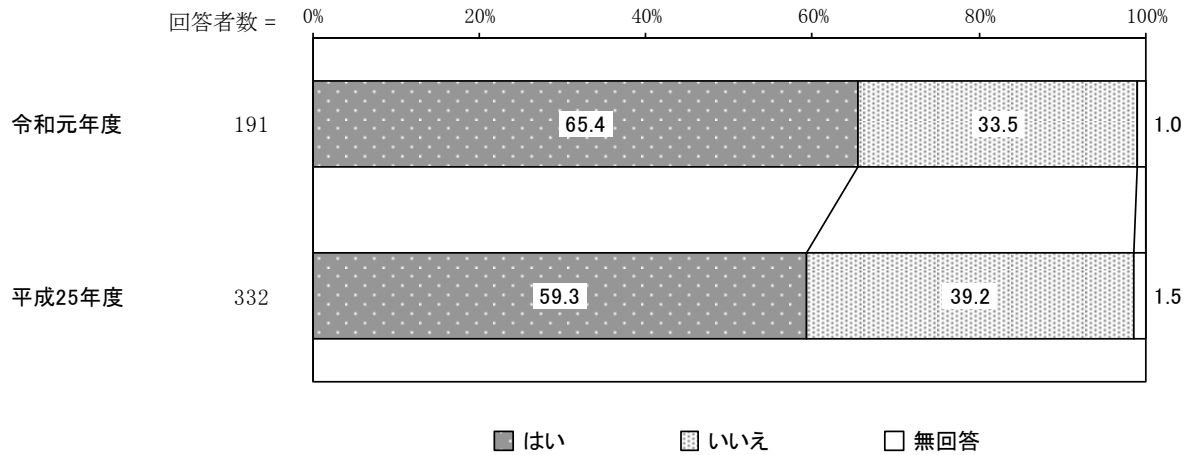
- 運動習慣を日常生活の中で取り入れる工夫が大切です。心身共に健康に過ごすため、成長期であるこの時期に、積極的に運動することを心掛ける必要があります。
- 気軽に運動できる場の提供及び情報発信が必要です。

＜主なアンケート調査結果＞

①テレビやビデオを見る時間やゲームの時間が合わせて1日2時間以上あるか（小学生）

「はい」の割合が65.4%、「いいえ」の割合が33.5%となっています。

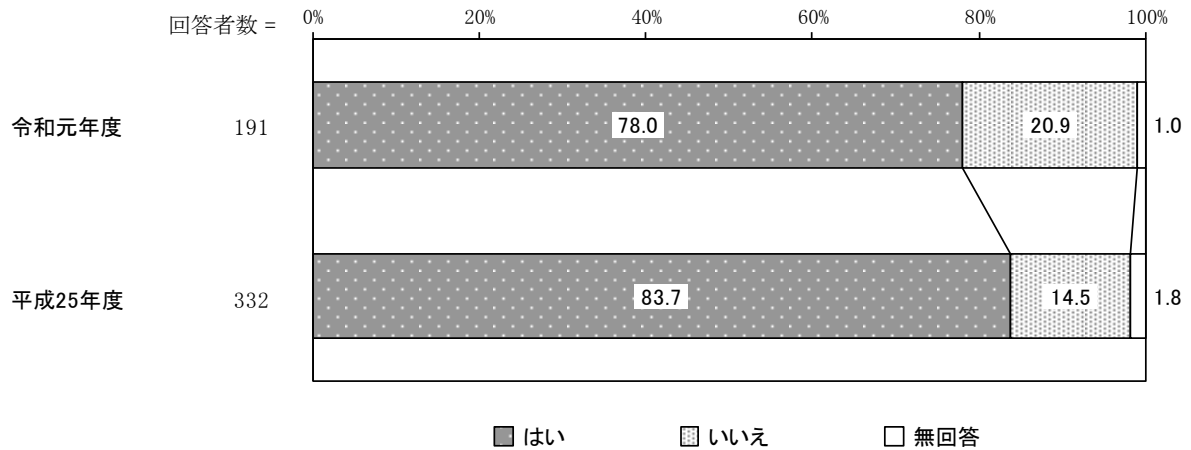
前回調査と比較すると、「はい」の割合が増加しています。



②同学年の子とも遊ぶことがよくあるか

「はい」の割合が78.0%、「いいえ」の割合が20.9%となっています。

前回調査と比較すると、「はい」の割合が減少しています。



【成人期】

みんなの願い 生活の中で効率良く運動量を増やそう

	指標		平成 25 年度	中間評価 令和元 年度	評価点	目標	目標値 令和 2 年度
成人期	心身の健康を高めるため、意識的に体を動かす	実施している	56.3%	61.4%	5	増やす	65%以上
	できるだけ歩くように心掛ける	1時間以上歩いている	30.6%	32.6%	4		35%以上
	週 2 回 30 分以上運動をする	運動習慣者（男性）	36.2%	40.8%	4		45%以上
		運動習慣者（女性）	22.9%	30.5%	5		35%以上

<中間評価>

- 心身の健康を高めるため、意識的に体を動かしている人の割合は、評価点 5 点と改善の方向です。
- 週 2 回 30 分以上の運動をする運動習慣者の割合は、男女ともに前回調査より増加しています。

<今後の課題>

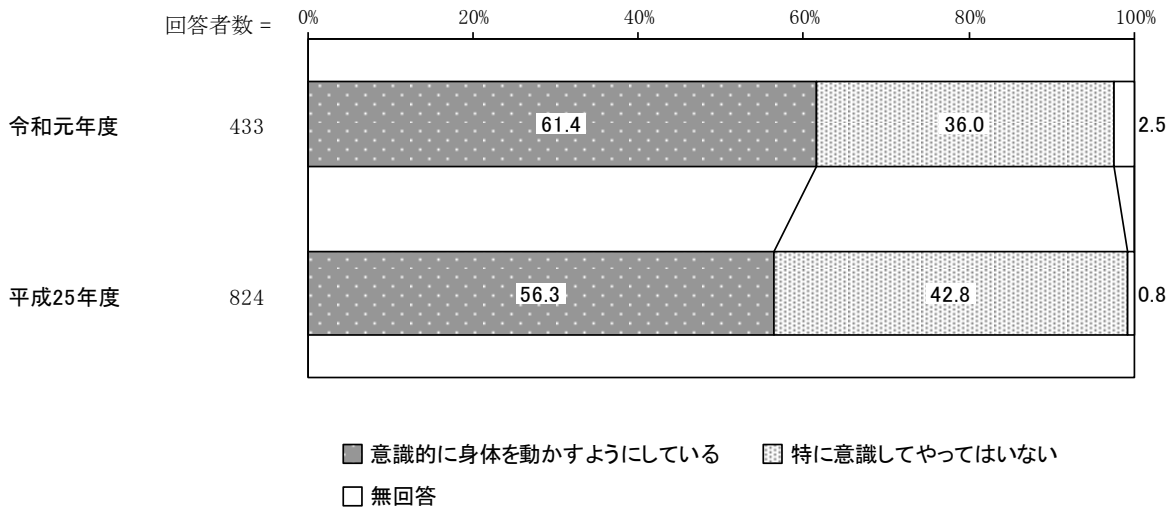
- 運動が健康に与える効果についての知識を身につけるとともに、運動習慣の定着を図ることが必要です。

<主なアンケート調査結果>

①日ごろから意識的に身体を動かすようにしているか

「意識的に身体を動かすようにしている」の割合が 61.4%、「特に意識してやってはいない」の割合が 36.0%となっています。

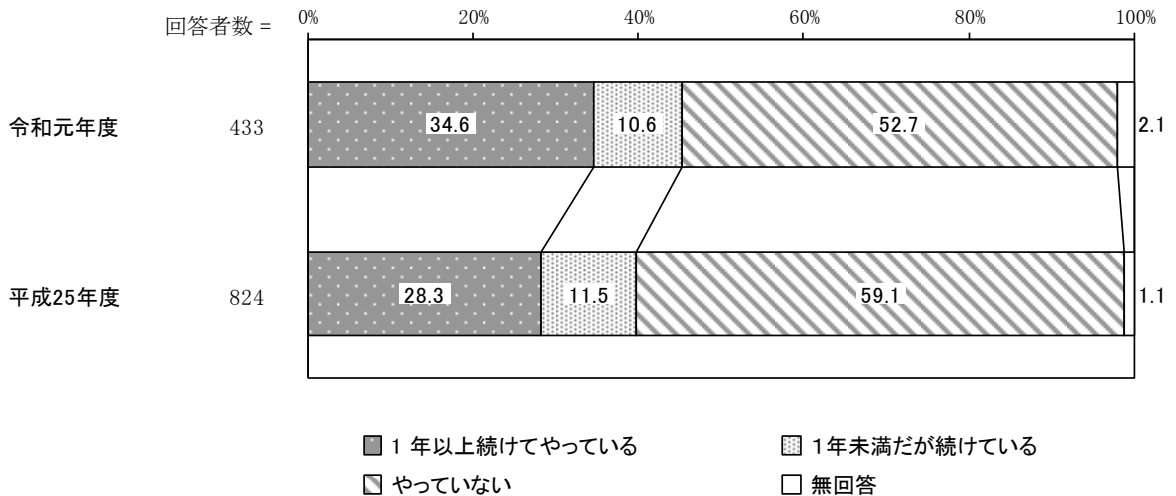
前回調査と比較すると、「意識的に身体を動かすようにしている」の割合が 5.1 ポイント増加し、「特に意識してやってはいない」の割合が 6.8 ポイント減少しています。



②運動を1回30分以上、週2回以上、続けてやっているか

「やっていない」の割合が 52.7%と最も高く、次いで「1年以上続けてやっている」の割合が 34.6%、「1年未満だが続けている」の割合が 10.6%となっています。

前回調査と比較すると、「1年以上続けてやっている」の割合が 6.3 ポイント増加し、「やっていない」の割合が 6.4 ポイント減少しています。



(7) 休養・こころの健康

【乳幼児期】

みんなの願い 家族のふれあいを増やそう

	指標		平成 25 年度	中間評価 令和元 年度	評価点	目標	目標値 令和 2 年度
乳 幼 児 期	子育てが「楽しい」と 感じている	乳幼児の保護者	19.9%	15.1%	2	増やす	25%以上
	子育てが「負担」と感 じている	乳幼児の保護者	15.1%	16.1%	3	減らす	15%以下
	早寝の習慣を付ける	午後 9 時までに寝る習慣 がある幼児	28.4%	33.0%	4	増やす	65%以上

<中間評価>

- 午後 9 時までに寝る習慣がある幼児の割合は 33.0%で、前回調査より 4.6 ポイント増加しています。
- 子育てが「楽しい」と感じている乳幼児保護者の割合は 16.1%で、前回調査より 3.8 ポイント減少しています。

<今後の課題>

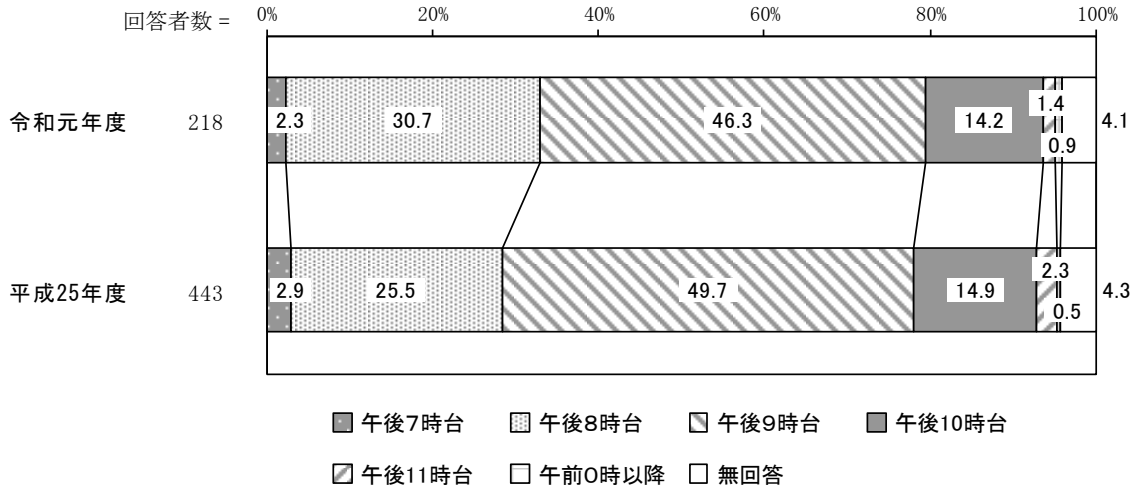
- 子育ての楽しみや喜びを感じられるような子育て環境の充実を図ることが必要です。

<主なアンケート調査結果>

①就寝時間

「午後9時台」の割合が46.3%と最も高く、次いで「午後8時台」の割合が30.7%、「午後10時台」の割合が14.2%となっています。

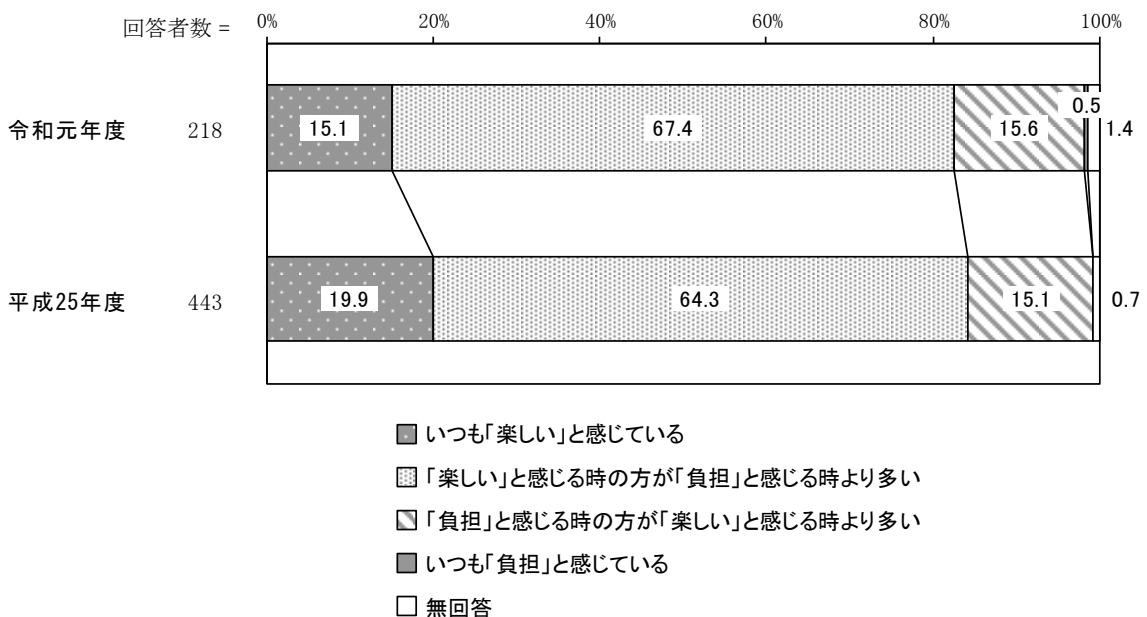
前回調査と比較すると、「午後8時台」の割合が5.2ポイント増加しています。



②子育てを楽しんでいるか

『楽しい』と感じる時の方が『負担』と感じる時より多い」の割合が67.4%と最も高く、次いで『負担』と感じる時の方が『楽しい』と感じる時より多い」の割合が15.6%、「いつも『楽しい』と感じている」の割合が15.1%となっています。

前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【学童期・思春期】

みんなの願い 気軽に相談できる相手を見つけよう

	指標		平成 25 年度	中間評価 令和元 年度	評価点	目標	目標値 令和 2 年度
学童期・思春期	朝すっきり目覚めることができる	小学生	20.2%	21.5%	3	増やす	25%以上
		中学生	12.6%	14.2%	3		15%以上
		高校生	9.5%	7.7%	3		10%以上
	ストレスの解消ができている	小学生	57.5%	58.1%	3	増やす	60%以上
		中学生	73.3%	76.4%	4		75%以上
		高校生	73.3%	76.9%	4		75%以上
	子ども自身が相談できる人がいると思う	小学生の保護者	70.8%	69.1%	3	減らす	75%以上
子育てが「負担」と感じている	小学生の保護者	14.2%	16.8%	2	13%以下		
心の悩みについて相談できる人がいる	「特にいない」中学生・高校生	15.8%	13.4%	4	10%以下		

※4は目標値を達成した項目

<中間評価>

- 子ども自身が相談できる人がいると思う小学生保護者の割合は 69.1%で、前回調査より 1.7 ポイント減少しています。
- 子育てが「負担」と感じている小学生保護者の割合は 16.8%で、前回調査より 2.6 ポイント増加しています。

<今後の課題>

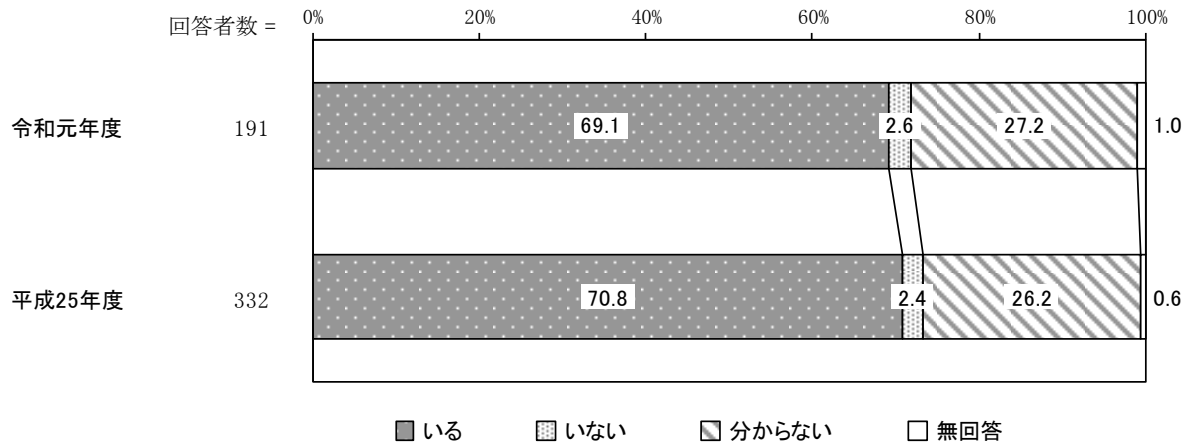
- 周囲がこころの不調に気づき、声をかけ、必要に応じて適切な相談機関や専門家等につながるような取組が必要です。

＜主なアンケート調査結果＞

①悩みについて、子ども自身が相談できる人を持っていると思うか（小学生）

「いる」の割合が69.1%と最も高く、次いで「分からない」の割合が27.2%となっています。

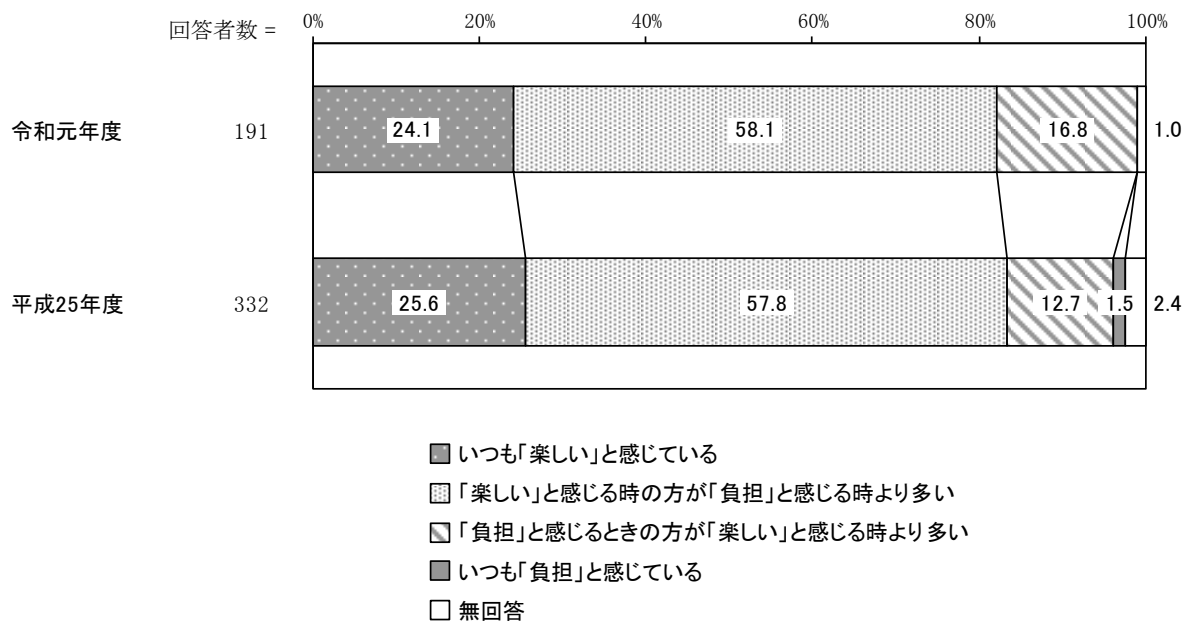
前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。



②子育てを楽しんでいると感じるか（小学生）

『楽しい』と感じる時の方が『負担』と感じる時より多いの割合が58.1%と最も高く、次いで「いつも『楽しい』と感じている」の割合が24.1%、『負担』と感じるときの方が『楽しい』と感じる時より多いの割合が16.8%となっています。

前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【成人期】

みんなの願い 認め合える仲間とたくさん笑おう

	指標		平成 25 年度	中間評価 令和元 年度	評価点	目標	目標値 令和 2 年度
成人期	ストレスの解消がで ている	男性	69.8%	71.2%	3	増やす	80%以上
		女性	72.0%	69.5%	2		80%以上
	朝すっきり目覚めることができる		16.9%	17.1%	3		25%以上
	心の悩みについて相談 できる人がいる	相談する相手がいる	89.3%	88.5%	3		90%以上

<中間評価>

- ストレスの解消がでている女性の割合は 69.5%で、前回調査より 2.5 ポイント減少
しています。
- 心の悩みについて相談できる人がいる割合は 88.5%で、前回調査より 0.8 ポイント
減少しています。

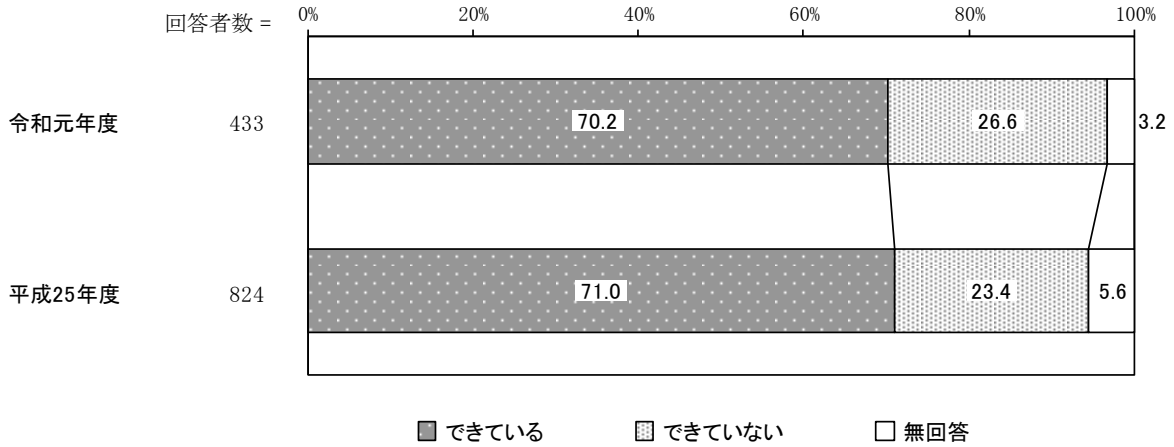
<今後の課題>

- 自分にあった健康的なストレス解消法を見つけることや、身近な相談相手を持つこ
とが必要です。

＜主なアンケート調査結果＞

①ストレスの解消はできているか

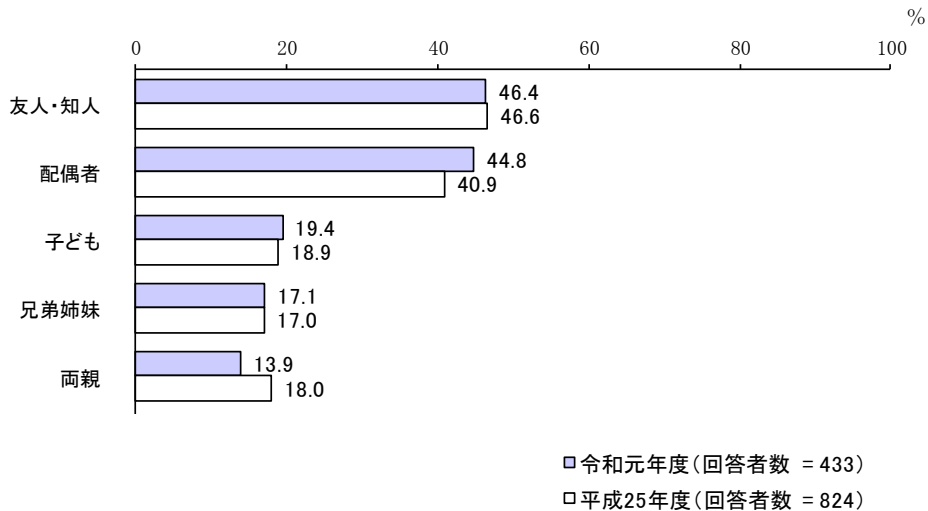
「できている」の割合が70.2%、「できていない」の割合が26.6%となっています。
 前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。



②悩みを相談できる人はどのような人か【上位5項目】

「友人・知人」の割合が46.4%と最も高く、次いで「配偶者」の割合が44.8%、「子ども」の割合が19.4%となっています。

前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。



(8) 歯・口腔の健康

【乳幼児期】

みんなの願い 食べたら歯磨きの習慣を付けよう

	指標		平成 25 年度	中間評価 令和元 年度	評価点	目標	目標値 令和 2 年度
乳 幼 児 期	おやつ回数を1日 2回以下にする	実行している乳幼児の保護 者	92.6%	89.5%	2	増やす	95%以上
	きちんと子どもの歯 の仕上げ磨きをする	実行している乳幼児の保護 者	86.5%	95.0%	5		90%以上
	フッ化物を継続的に 利用する	フッ素入り歯磨き剤を使用 している乳幼児の保護者	53.0%	68.3%	5		90%以上
	おやつと食事を2時 間以上あける	実行できている乳幼児	59.8%	57.8%	3		90%以上
	かかりつけ歯科医を 持ち定期的に歯科健 康診査を受ける	かかりつけ歯科医がいる乳 幼児	45.1%	50.5%	5		60%以上
		定期的に歯科健康診査を受 けている乳幼児	35.0%	43.1%	5		40%以上

※5は目標値を達成した項目

<中間評価>

- おやつ回数を1日2回以下にする乳幼児の保護者の割合は89.5%で、前回調査より3.1ポイント減少しています。
- おやつと食事を2時間以上あける乳幼児の割合は57.8%で、前回調査より2.0ポイント減少しています。
- きちんと子どもの歯の仕上げ磨きをする乳幼児の保護者、フッ化物を継続的に利用する乳幼児の保護者、かかりつけ歯科医を持ち定期的に歯科健康診査を受ける乳幼児については、評価点5点と改善の方向です。

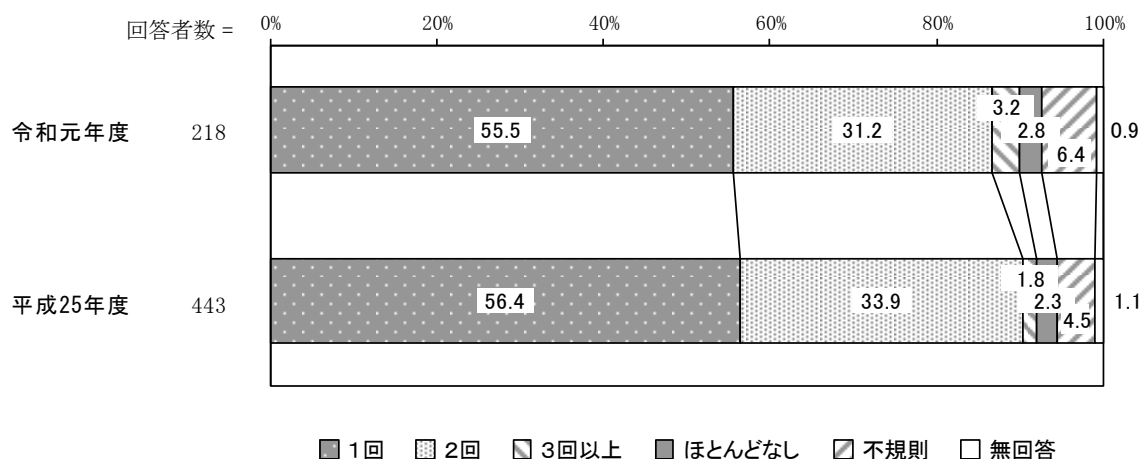
<今後の課題>

- 乳歯がむし歯になるとその後生えてくる永久歯にも悪影響を与えるため、乳幼児期からのむし歯予防について啓発していくことが必要です。

＜主なアンケート調査結果＞

① 1日のおやつは何回か

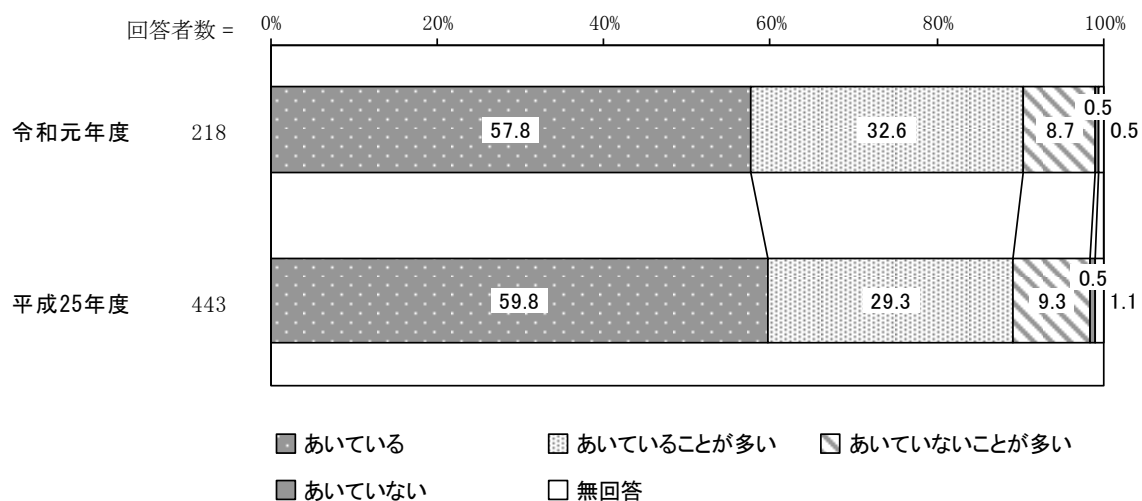
「1回」の割合が55.5%と最も高く、次いで「2回」の割合が31.2%となっています。
前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。



② おやつと食事時間の間隔は2時間以上あいているか

「あいている」と「あいていることが多い」をあわせた“あいている”の割合が90.4%、「あいていないことが多い」と「あいていない」をあわせた“あいていない”の割合が9.2%となっています。

前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【学童期・思春期】

みんなの願い 自分の歯と歯ぐきを知ろう

	指標		平成 25 年度	中間評価 令和元 年度	評価点	目標	目標値 令和 2 年度	
学 童 期 ・ 思 春 期	よく噛んで食べる習慣を付ける	よく噛んで食べる習慣がある小学生	70.8%	81.2%	5	増やす	75%以上	
	正しい歯磨き習慣を付ける	食事後には、必ず歯を磨く小学生	48.5%	44.5%	2		70%以上	
		丁寧に磨いている	中学生	36.3%	37.2%		3	60%以上
			高校生	25.4%	27.5%		4	50%以上
	フッ化物を継続的に利用する	フッ素入り歯磨き剤を使用している	小学生	51.2%	62.8%		5	55%以上
			中学生	32.8%	56.1%		5	35%以上
			高校生	21.6%	37.4%		5	35%以上
	かかりつけ歯科医を持つ	かかりつけ歯科医がいる	小学生	88.0%	83.2%		2	90%以上
			中学生	74.4%	79.1%		4	80%以上
			高校生	61.2%	57.1%		2	70%以上

※5は目標値を達成した項目

<中間評価>

- 食事後には、必ず歯を磨く小学生の割合は 44.5%で、前回調査より 4.0 ポイント減少しています。
- かかりつけ歯科医がいる小学生、高校生の割合は、前回調査より減少しています。
- よく噛んで食べる習慣がある小学生、フッ素入り歯磨き剤を使用している小学生、中学生、高校生は評価点 5 点と改善の方向です。

<今後の課題>

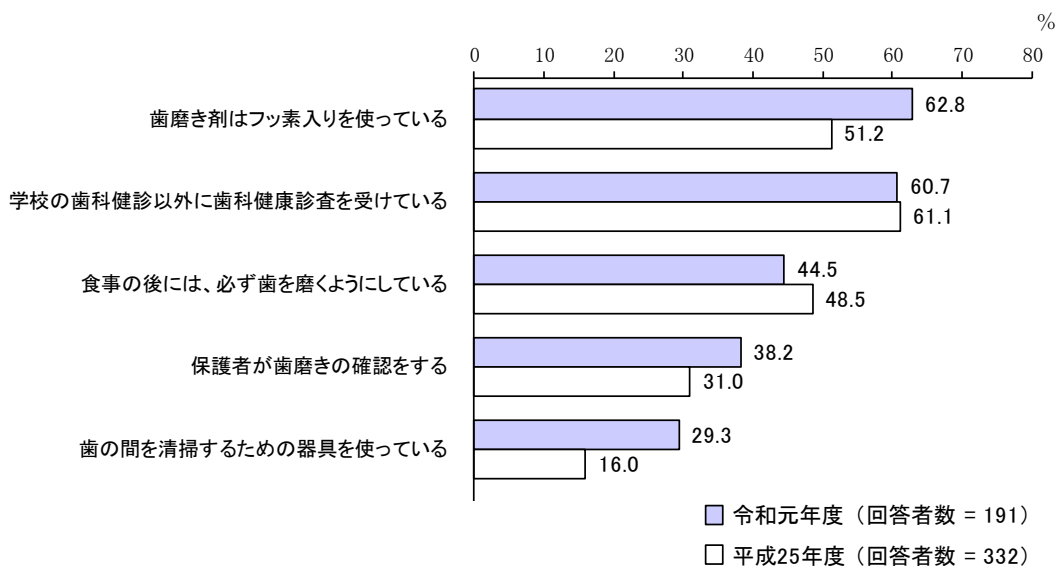
- 正しいブラッシング方法を知り、毎食後歯みがきをする習慣を身に付けることが必要です。

＜主なアンケート調査結果＞

①歯や歯ぐきの健康のために実行していることはあるか【上位5項目】（小学生）

「歯磨き剤はフッ素入りを使っている」の割合が62.8%と最も高く、次いで「学校の歯科健診以外に歯科健康診査を受けている」の割合が60.7%、「食事の後には、必ず歯を磨くようにしている」の割合が44.5%となっています。

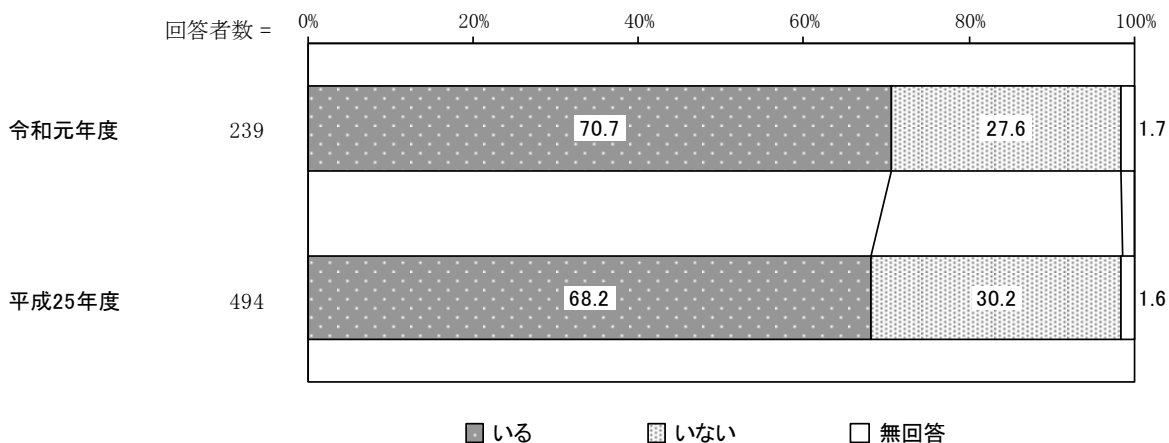
前回調査と比較すると、「歯磨き剤はフッ素入りを使っている」「保護者が歯磨きの確認をする」「歯の間を清掃するための器具(歯間ブラシ、糸付きようじなど)を使っている」の割合が増加しています。



②かかりつけの歯科医師がいるか（中学生・高校生）

「いる」の割合が70.7%、「いない」の割合が27.6%となっています。

前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【成人期】

みんなの願い いつまでも自分の歯で食事を楽しもう

	指標		平成 25 年度	中間評価 令和元 年度	評価点	目標	目標値 令和 2 年度	
成人期	正しい歯磨きの習慣を付ける	毎食後丁寧に磨く	32.0%	34.9%	4	増やす	60%以上	
	歯間部清掃用具を使用する	使用している	43.8%	54.7%	5		50%以上	
	若いころからかかりつけ歯科医の指導を受ける	かかりつけ歯科医がいる	20 歳代	52.3%	46.2%		1	60%以上
			30 歳代	48.9%	49.1%		3	60%以上
	定期的に歯科健康診査を受ける	受けている	23.1%	33.7%	5		60%以上	

※5は目標値を達成した項目

<中間評価>

- かかりつけ歯科医がいる 20 歳代の割合は、評価点 1 点と悪化の方向です。
- 歯間部清掃用具を使用している、定期的に歯科健康診査を受ける割合は、評価点 5 点と改善の方向です。

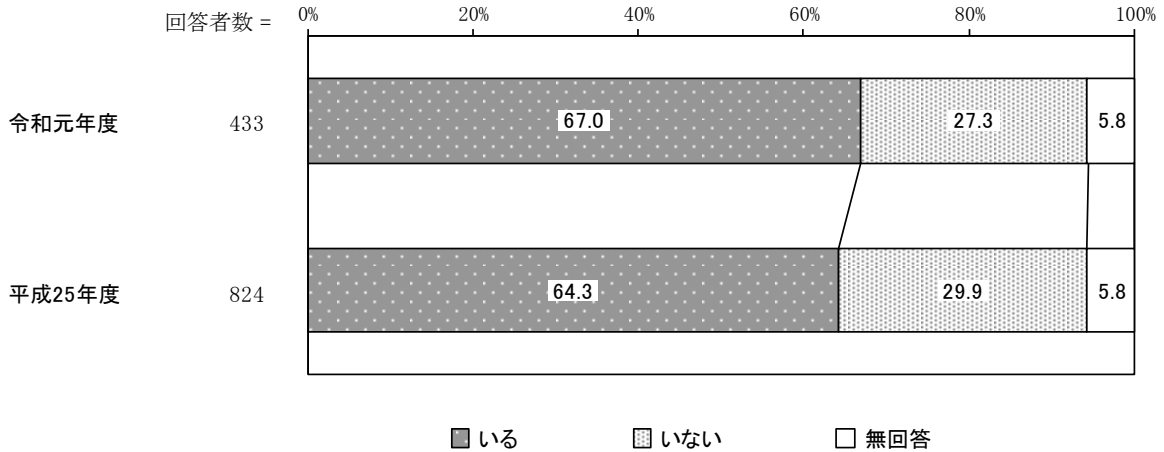
<今後の課題>

- 歯や口腔の健康づくりのためにもかかりつけの歯科医を持ち、定期的に歯科健診を受けることが必要です。

<主なアンケート調査結果>

①かかりつけの歯科医師がいるか

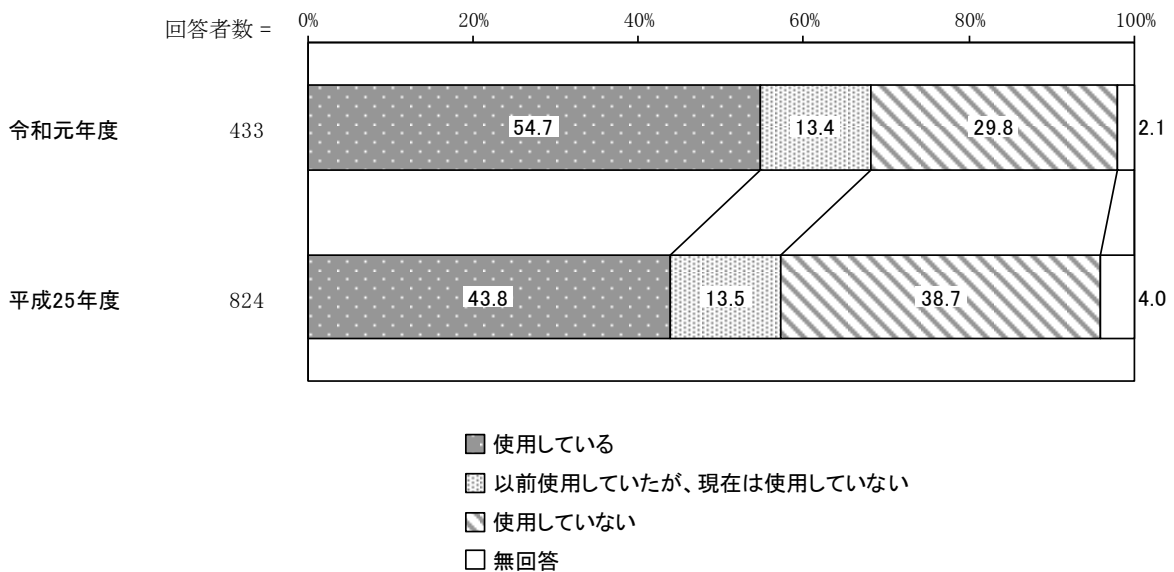
「いる」の割合が67.0%、「いない」の割合が27.3%となっています。
 前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。



②歯の間を清掃する器具（歯間ブラシや糸付きようじなど）を使用しているか

「使用している」の割合が54.7%と最も高く、次いで「使用していない」の割合が29.8%、「以前使用していたが、現在は使用していない」の割合が13.4%となっています。

前回調査と比較すると、「使用している」の割合が10.9ポイント増加し、「使用していない」の割合が8.9ポイント減少しています。



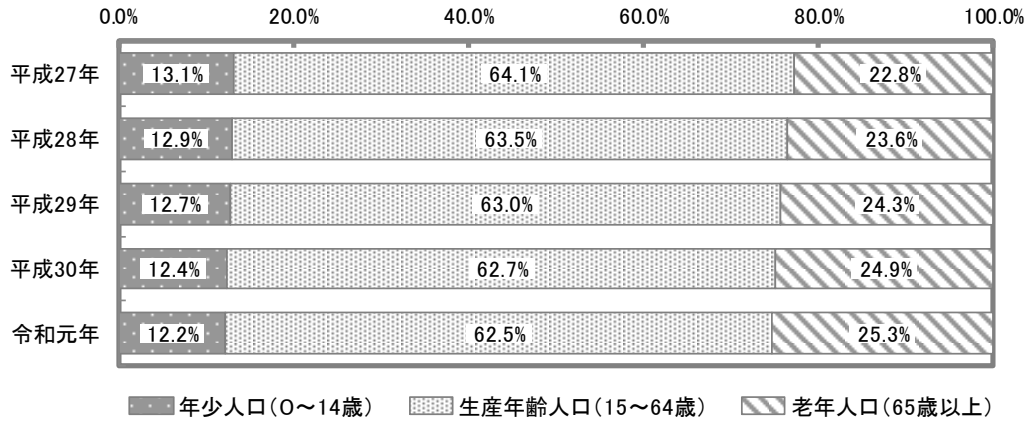
資料

1 国と厚木市の状況

分野	国の状況「健康日本 21」 (第 2 次) 中間評価	厚木市の現状 (令和元年度アンケート調査結果等)
生活習慣病・がん・認知症	特定健康診査の実施率 50.1% (平成 27 年度)	特定健康診査 受診率 33.1% (平成 30 年度)
	がん検診の受診率 (平成 28 年度) 胃がん 男性 46.4% 女性 35.6% 肺がん 男性 51.0% 女性 41.7% 大腸がん 男性 44.5% 女性 38.5% 子宮頸がん 女性 42.4% 乳がん 女性 44.9%	がん検診 受診率 (平成 30 年度) 胃がん 25.4% 肺がん 31.8% 大腸がん 26.9% 子宮頸がん 21.0% 乳がん 20.5%
	適正体重を維持している者の増加 (肥満 (BMI 25 以上)、やせ (BMI 18.5 未満) の減少) (平成 28 年度) 20 歳～60 歳代男性の肥満者 32.4% 40 歳～60 歳代女性の肥満者 21.6% 20 歳代女性のやせの者 20.7%	体重をコントロールする 肥満男性 23.0% 肥満女性 18.8% やせ 20～30 歳代女性 19.6%
	ロコモティブシンドローム (運動器症候群) の認知度 46.8% (平成 29 年度)	ロコモティブシンドローム (運動器症候群) の認知度 50.1%
飲酒・喫煙	未成年者の喫煙 (平成 26 年度) 中学 1 年生 男子 1.0% 女子 0.3% 高校 3 年生 男子 4.6% 女子 1.4%	未成年者の喫煙 「吸ったことがある」 中学生・高校生 1.7%
	未成年者の飲酒 (平成 26 年度) 中学 3 年生 男子 7.2% 女子 5.2% 高校 3 年生 男子 13.7% 女子 10.9%	未成年者の飲酒 「飲んだことがある」 中学生・高校生 6.7%
	成人の喫煙率 (喫煙をやめたい者がやめる) (平成 28 年度) 18.3%	喫煙の割合 (成人期) 15.9%
	COPD の認知度 (平成 29 年度) 25.5%	COPD (慢性閉塞性肺疾患) の認知度 (成人期) 50.6%
	生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者 (1 日当たりの純アルコール摂取量が男性 40g 以上、女性 20g 以上の者) (平成 28 年度) 男性 14.6% 女性 9.1%	多量飲酒者 (一日当たりの純アルコール摂取量が男性 40g 以上、女性 20g 以上の者) (成人期) 男性 8.9% 女性 4.0%
栄養・食生活	共食 (食事を 1 人で食べる子どもの割合) (平成 26 年度) 朝食 小学生 11.3% 中学生 31.9% 夕食 小学生 1.9% 中学生 7.1%	家族と一緒に食事をしている 小学生 93.7% 中学生 (夕食) 87.8% 中学生 (朝食) 54.7%
	主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が 1 日 2 回以上の日がほぼ毎日の者の割合 (平成 28 年度) 59.7%	バランスの良い食事を心掛けている (成人期) 62.4%
身体活動・運動	運動習慣者の割合 (平成 28 年度) 20～64 歳 男性 23.9% 女性 19.0%	週 2 回 30 分以上運動をする (成人期) 運動習慣者 (男性) 40.8% 運動習慣者 (女性) 30.5%

2 人口構成の推移

厚木市の人口構成の推移は、年少人口（0～14歳）、生産年齢人口（15～64歳）は年々減少しており、老年人口（65歳以上）は増加傾向で、少子高齢化が進んでいます。



資料：住民基本台帳（各年10月1日現在）

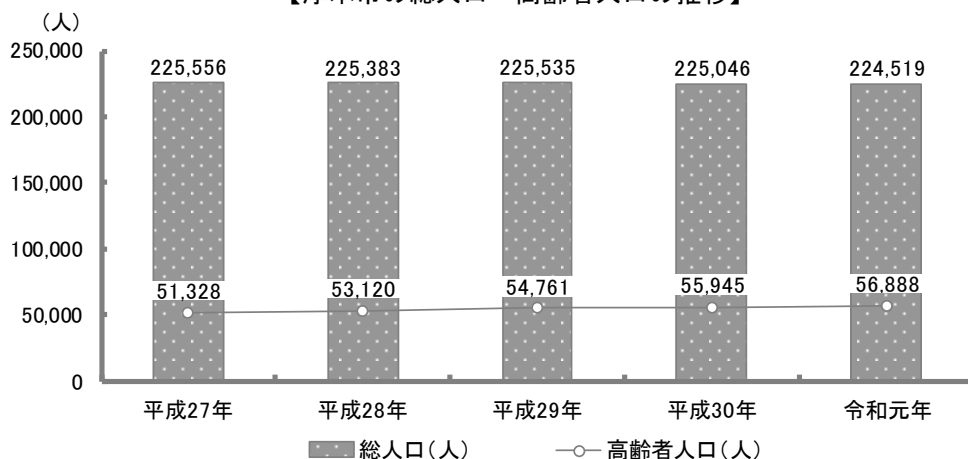
3 高齢化率の推移

厚木市の高齢化率の推移は、平成 27 年から令和元年までに 5,500 人以上の高齢者が増え、高齢化率も 2.6 ポイント増加しました。また、65 歳から 74 歳までは減少し、75 歳以上は増加しています。

【人口・高齢者人口の推移】

区分	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	令和元年
総人口 (人)	225,556	225,383	225,535	225,046	224,519
高齢者人口 (人)	51,328	53,120	54,761	55,945	56,888
高齢化率 (%)	22.8	23.6	24.3	24.9	25.3
65 歳から (人)	31,065	31,298	31,239	30,949	30,354
74 歳まで (%)	13.8	13.9	13.9	13.8	13.5
75 歳以上 (人)	20,263	21,822	23,522	24,996	26,534
(%)	9.0	9.7	10.4	11.1	11.8

【厚木市の総人口・高齢者人口の推移】



資料：住民基本台帳（各年 10 月 1 日現在）

【全国、神奈川県の高齢化率】

区分		平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年	平成 27 年	平成 30 年
全国	65 歳以上	17.3	20.1	22.8	26.3	28.1
	75 歳以上	7.1	9.1	11.0	12.7	14.2
神奈川	65 歳以上	13.8	16.8	20.1	24.1	25.1
	75 歳以上	5.2	6.8	8.7	11.0	12.5

資料：国勢調査、総務省統計局「推計人口」（各年 10 月 1 日現在）

4 健康寿命・平均寿命の状況（国・県）

全国の健康寿命の推移は、「日常生活に制限のない期間の平均」が、平成19年から平成28年をみると、男性は1.81年延伸し、女性は1.43年延伸しています。

また、平均寿命は、男性は1.79年、女性は1.15年延伸しています。

都道府県別の平均寿命の推移をみると、神奈川県男性は全国で上位5位の中に入っています。神奈川県女性は、10位台、20位台となっています。

【日常生活に制限のない期間の平均：全国の年次推移】

	男性			女性		
	日常生活に制限のない期間の平均（年）	日常生活に制限のある期間の平均（年）	平均寿命（年）	日常生活に制限のない期間の平均（年）	日常生活に制限のある期間の平均（年）	平均寿命（年）
平成19年	70.33	8.86	79.19	73.36	12.63	85.99
平成22年	70.42	9.22	79.64	73.62	12.77	86.39
平成25年	71.19	9.01	80.21	74.21	12.40	86.61
平成28年	72.14	8.84	80.98	74.79	12.34	87.14

資料：健康寿命の全国推移の算定・評価に関する研究

【平均寿命の推移（男・女）】

単位：年

	平成7年		平成12年		平成17年		平成22年		平成27年		平成27年－平成22年	
	平均寿命	順位	平均寿命	順位	平均寿命	順位	平均寿命	順位	平均寿命	順位	平均寿命	順位
全国（男性）	76.70	…	77.71	…	78.79	…	79.59	…	80.77	…	1.18	…
全国（女性）	83.22	…	84.62	…	85.75	…	86.35	…	87.01	…	0.66	…
神奈川県（男性）	77.20	6	78.24	5	79.52	3	80.25	5	81.32	5	1.07	33
神奈川県（女性）	83.35	25	84.74	23	86.03	18	86.63	15	87.24	17	0.61	23

資料：厚生労働省 H27年都道府県別生命表の概況

【平成28年平均寿命と健康寿命】

単位：年

		男性	女性
神奈川県	平均寿命	81.64	87.46
	健康寿命	72.30	74.63
	差	9.34	12.83
全国	平均寿命	80.98	87.14
	健康寿命	72.14	74.79
	差	8.84	12.35

資料：健康寿命の全国推移の算定・評価に関する研究

平成 28 年 厚木市の健康寿命・平均寿命

厚木市の健康寿命を算定しました。

なお、国及び県の健康寿命と市の健康寿命では、「不健康な期間」の算定に用いるデータが異なるため、算定値に差異が生じています。

【平成 28 年 厚木市の平均寿命と健康寿命】

単位：年

		男性	女性
厚 木 市	平均寿命	81.24	86.43
	健康寿命	79.66	83.11
	差	1.58	3.32

健康寿命について Q & A

Q. 健康寿命がなぜ重要なのでしょう

A. 健康に関する数値指標としては、従来、平均寿命が使われてきました。しかし、平均寿命が大きく伸びるとともに、生活習慣病や高齢化による身体機能の低下などが問題となってきました。

そのため、健康の指標としては、単純な寿命の長さをみるだけではなく、自立して健康的に生活できる期間である「健康寿命」を用いることが重要となりました。

我が国の平均寿命、健康寿命はともに延びており、平成 28 年版厚生労働白書では、「平均寿命の延び以上に健康寿命を延ばす（不健康な期間を短縮する）ことが重要」としています。

Q. 国が公表している健康寿命とは何が違うのでしょうか

A. 厚生労働研究 健康寿命のウェブサイトでは、健康寿命に関する研究成果を公開しています。そこでは、健康寿命について幾つかの指標を示しており、国と市町村が算定する場合では以下の違いがあるとされています。

	健康寿命の指標	調査データ
国	「日常生活に制限のない期間の平均」 健康上の問題で日常生活に何か影響がありますか →「ある」「ない」	国民生活基礎調査
市町村	「日常生活動作が自立している期間の平均」 介護保険の要介護度 2～5 を不健康な状態 それ以外を健康な状態	介護保険情報

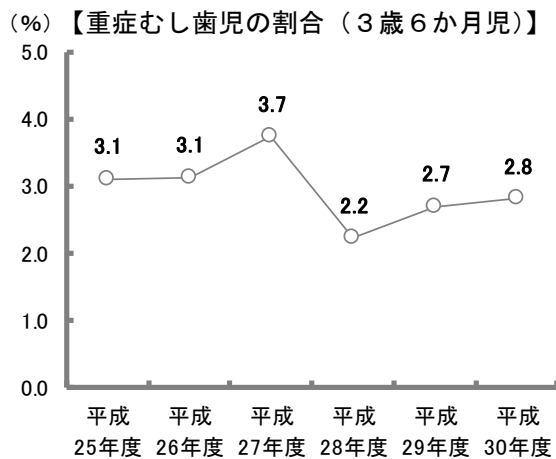
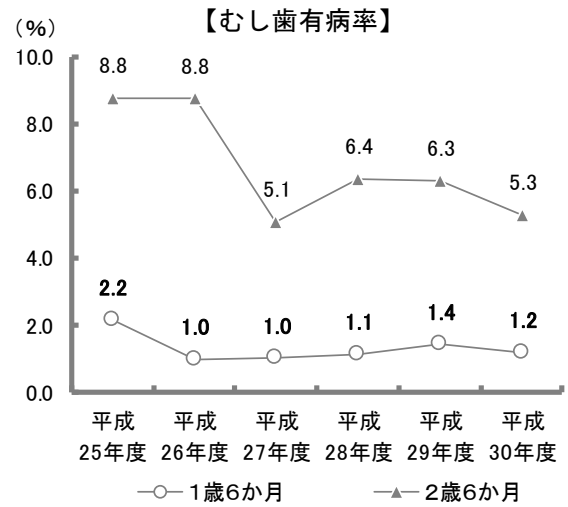
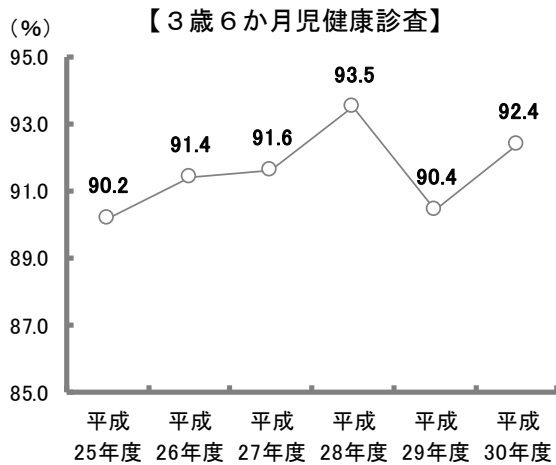
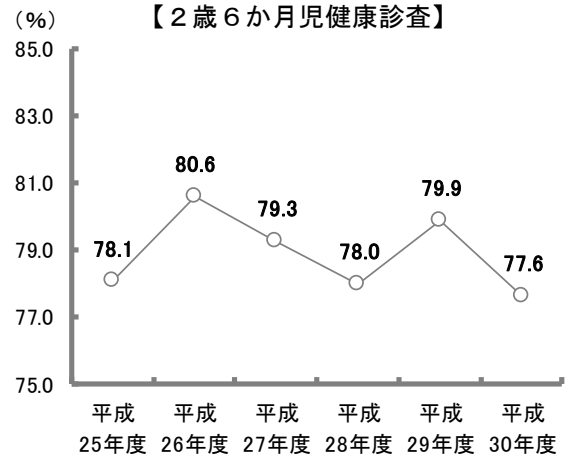
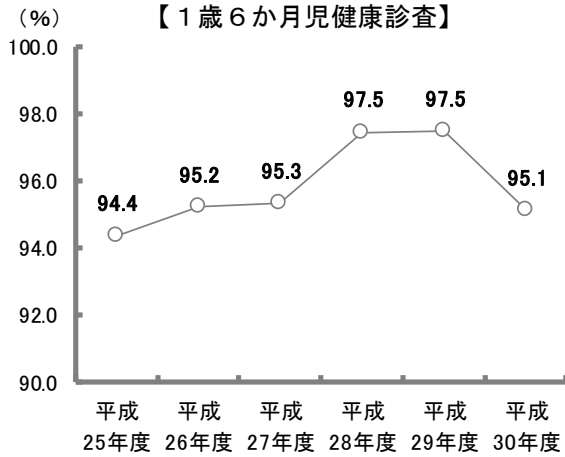
国が公表している健康寿命（「健康日本 21」の主指標や厚生労働白書など）は、国民生活基礎調査のデータを基に算出しています。国民生活基礎調査は、無作為抽出の対象が全国の世帯であるため、この指標では市町村ごとの健康寿命を算出することができません。

これに対し、要介護度のデータを使用する指標であれば、市町村が新たな調査をせずに健康寿命の算定が可能です。そのため市町村では要介護度を基にした指標により算定しています。

5 乳幼児健康診査の状況

厚木市の受診率をみると、2歳6か月児健康診査では7割半ばと、他の検診に比べ受診率が低くなっています。

歯科健康診査結果をみると、むし歯有病率の2歳6か月児は、平成25年度より減少傾向にあります。また、重症むし歯児[※]は、横ばいとなっています。



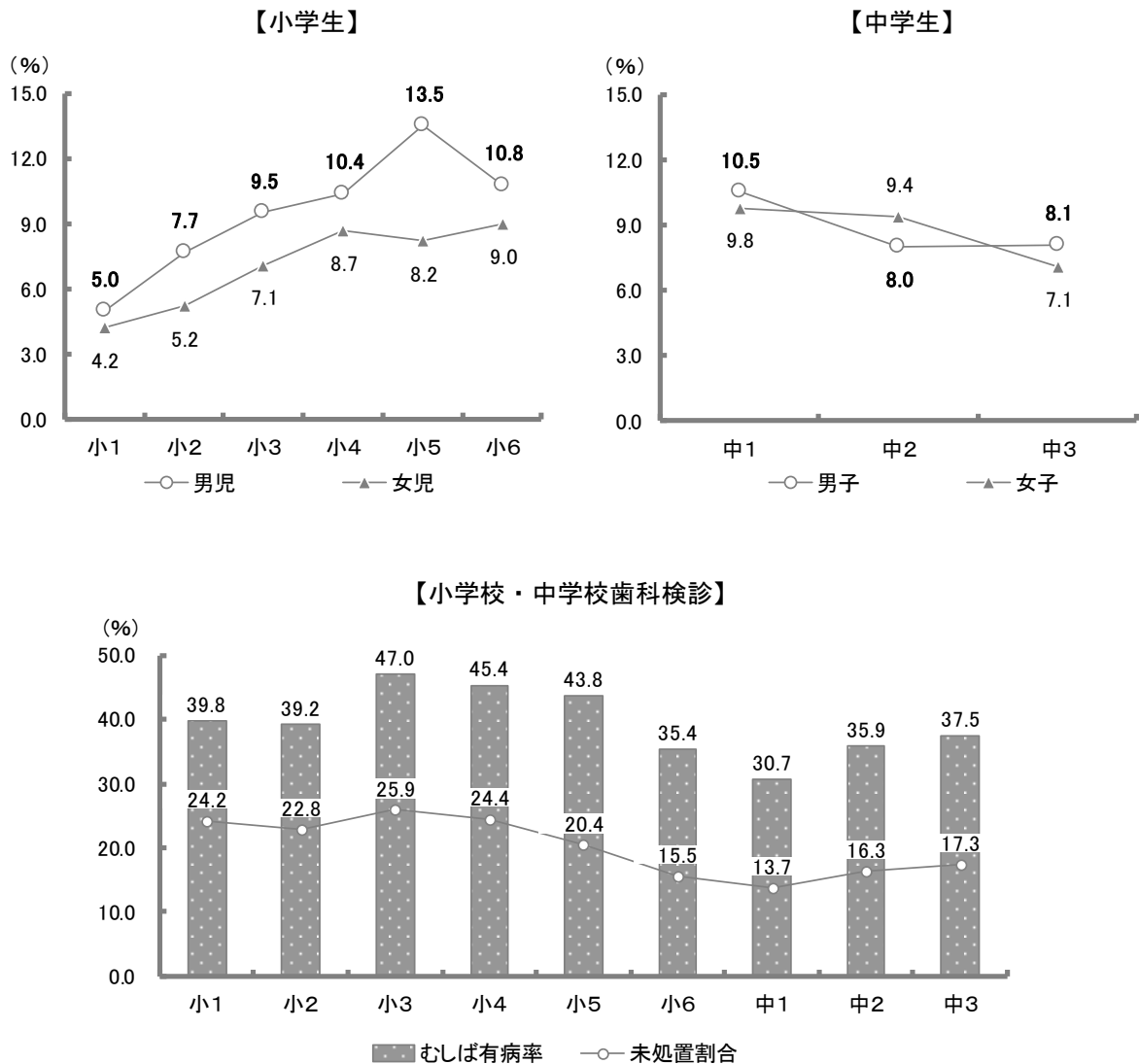
資料：年度別母子保健報告

※重症むし歯児：一人で6本以上のむし歯がある児のこと

6 学校保健の状況

厚木市の学校保健における肥満傾向の割合をみると、小学生の男児では5年生が高くなっています。女児をみると、高学年になるにつれて肥満傾向の割合が高くなっています。

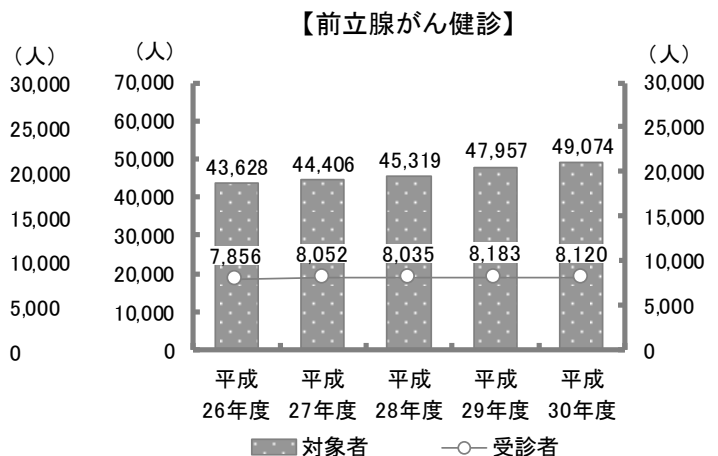
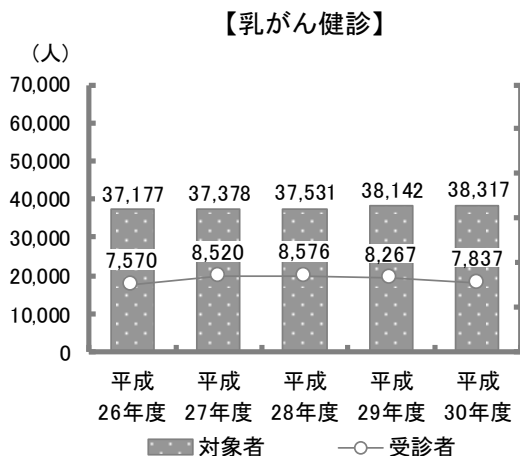
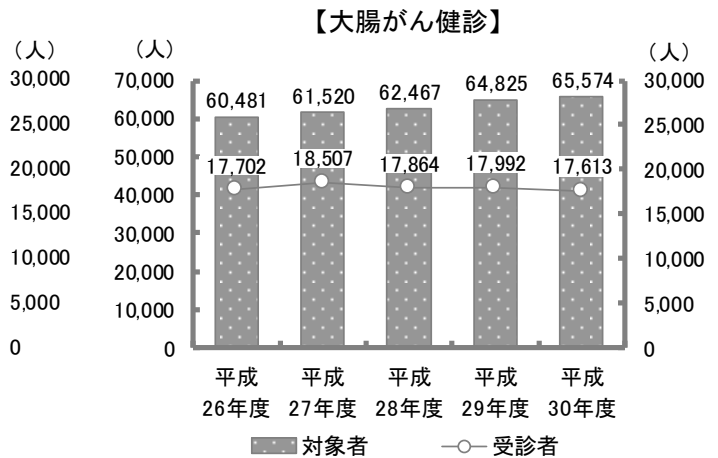
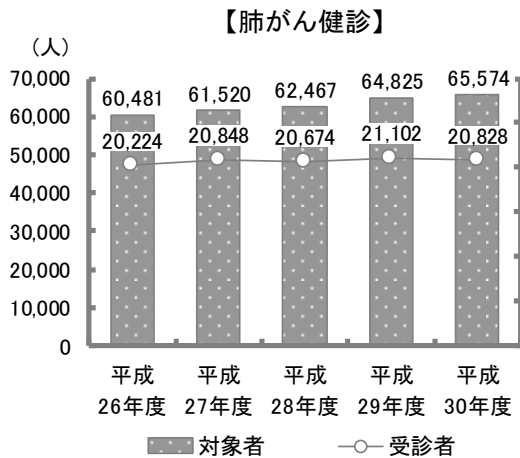
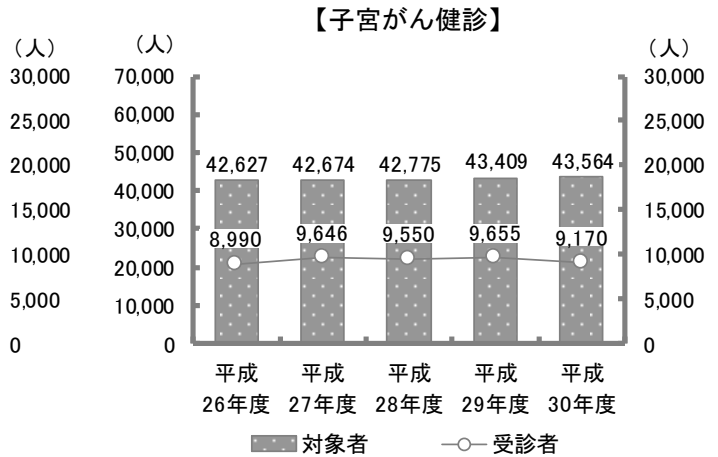
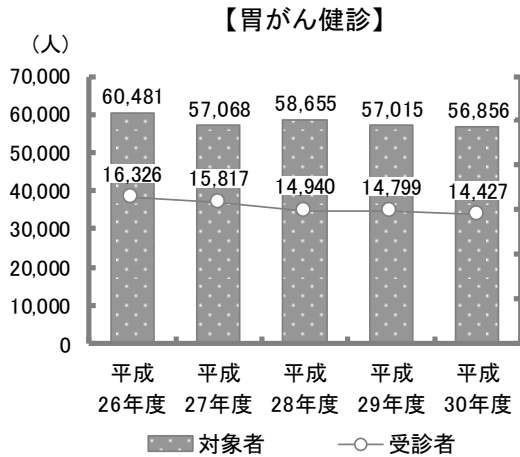
また、中学生では男子、女子ともに学年が上がるほど肥満割合は減少傾向です。むし歯有病率は、小学3年生が最も高く、中学1年生が最も低くなっています。未処置歯は小学校高学年から中学1年生までが減少傾向です。



資料：平成30年厚木市学校保健

7 がん検診の状況

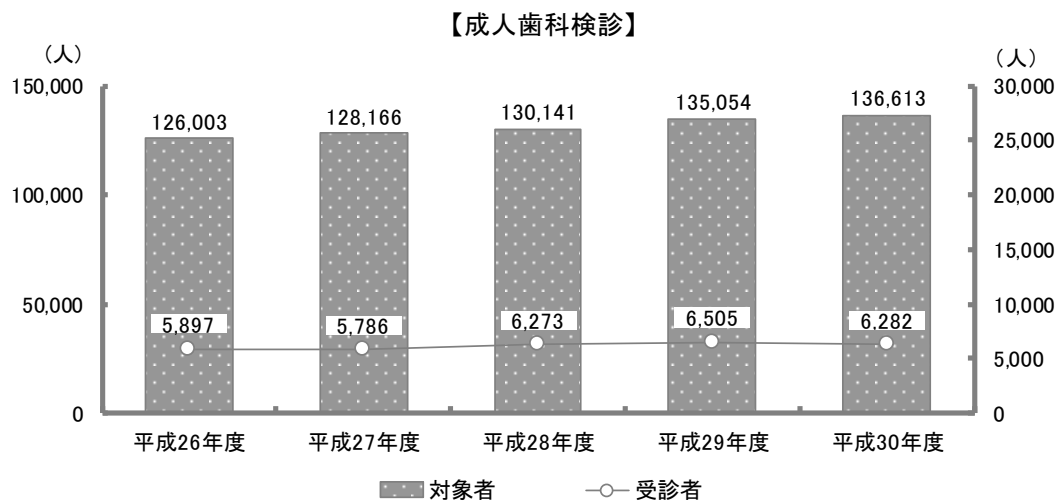
厚木市のがん別の対象者と受診者をみると、胃がん検診は、平成 26 年度から受診者、対象者ともに減少傾向です。子宮がん検診及び乳がん検診は、対象者、受診者とも年度別の大きな変化はみられません。肺がん検診、大腸がん検診及び前立腺がん検診は、平成 25 年度から対象者は毎年増加しているものの、受診者に大きな変化はみられませんでした。



資料：厚木市検診結果

8 歯科検診の状況

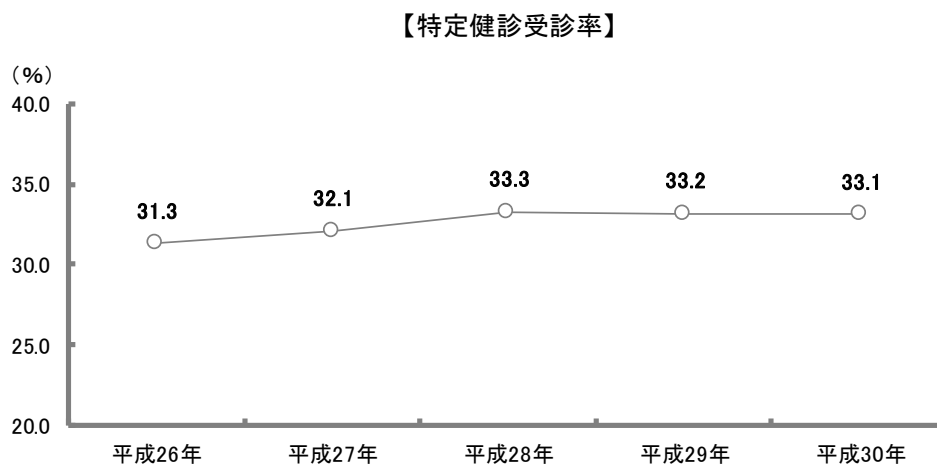
厚木市の成人歯科検診をみると、平成26年度から毎年対象者は増加しているものの、受診者は毎年ゆるやかに増減を繰り返しています。



資料：厚木市検診結果

9 特定健康診査受診者の状況

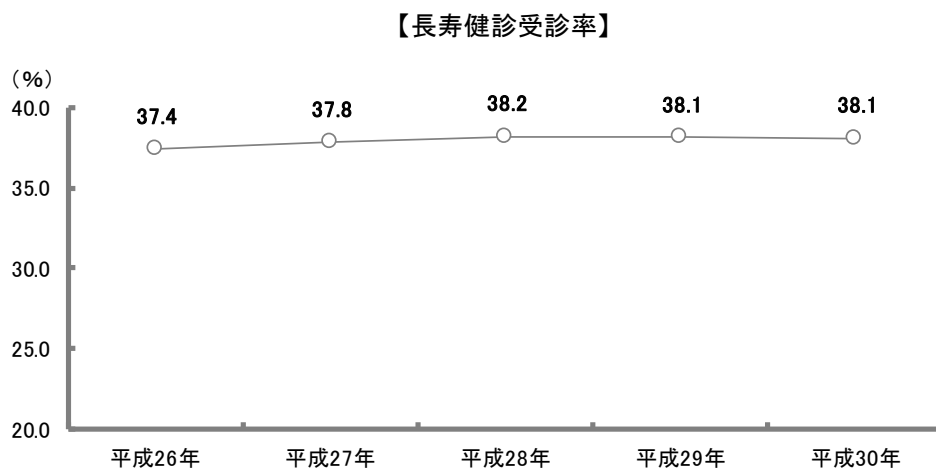
厚木市の特定健診受診率の推移をみると、横ばいとなっています。



資料：庁内資料

10 長寿健康診査受診者の状況

厚木市の長寿健診受診率の推移をみると、横ばいとなっています。



資料：庁内資料